令和 7 年度

社会福祉法人愛光園

事業報告書

目次

１、総括 ---------- 1
２、各事業所の状況
（１）足利愛光園 ---------- 4
（２）愛光園ホームあすか ---------- 5
（３）フルーエ ---------- 6
（４）愛光園障害者相談支援センター共生 ---------- 7
（５）一歩 ---------- 8
（６）陽光園 ---------- 9
（７）共働舎・愛光園 ---------- 10
（８）ホームゆい ---------- 11
（９）アイタウン ---------- 12
（10）彩光園 ---------- 13
（11）ないろ ---------- 14
（12）ホームかがやき ---------- 15
（13）ラクーン ---------- 16
（14）セレッソ館 ---------- 17
（15）三桝屋總本店 ---------- 18
（16）ホームみやび ---------- 19
（17）カレンフィールド ---------- 20
（18）カレンホーム ---------- 21
（19）愛光園障がい者相談支援センターひかり～輝～ -------- 22
（20）愛光園足利障害者相談支援センター ---------- 23
３、部会報告
（１）就労部会 ---------- 27
（２）介護部会 ---------- 28
（３）居住部会 ---------- 29
（４）地域支援部会 ---------- 30
４、委員会報告
（１）人材育成委員会 ---------- 31
（２）広報委員会 ---------- 32
（３）サービス向上委員会 ---------- 33
５、評議員会の開催状況 ---------- 34
６、理事会の開催状況 ---------- 34
７、外部研修等実施状況 ---------- 36
８、事業別職員数 ---------- 41
９、補助事業の活用状況 ---------- 42

令和７年度　事業報告書

１．総括

令和７年度は、物価高騰や人件費の上昇が続き、障害福祉サービス報酬が公定価格で運用される社会福祉法人にとって、安定した法人運営とサービスの質の確保を両立することが大きな課題となりました。また、全国的には就労系障害福祉サービス事業所における不正請求等の報道が相次ぎ、障害福祉サービスに対する社会的信頼が問われる中、法人としては、これまで以上に適正な運営と支援の質が求められる段階であることを認識しております。

そのような中、6 月の理事長就任を法人の新たな節目と捉え、法人理念を「誇りある毎日を共につくりあげよう」と再構築しました。この理念は、利用者様をはじめ、愛光園に関わるすべての人が、日々の中で自分らしく精一杯生きている実感を持ち、より良い人生を共に歩んでいく組織であり続けたいという想いが込められております。令和７年度は、この理念を基盤として、人財育成や事業所づくりの計画や取り組みを始めた一年となりました。

事業面では、親なき後を見据えた支援ニーズに応えるため、日中サービス支援型共同生活援助「ホームゆい」を開設するとともに、稲岡事業所に相談支援事務所棟を整備し法人の窓口機能の強化を図りました。また、重度の障がいのある方への支援を行う中で、日々の生活を支える責任の重さを改めて認識し、マニュアルの見直しや支援体制の確認、職員間の情報共有の強化等に努めました。

就労系事業においては、物価高騰や人件費上昇に対応するため、元請け企業様へ単価等の見直しを交渉し、一定のご理解とご協力をいただくことができたほか、経費削減や業務効率化に努め、工賃の確保に取り組みました。

そのような取り組みを行う中、職員が日々の支援、利用者様の受け入れ、事業活動の継続、業務改善、経費節減等に力を尽くしたことにより、法人全体として経営面において非常に良好な実績を残すことができたと考えております。これは、各現場の努力と工夫、法人全体の連携の成果であり、十分に評価できる一年であったと考えます。

令和 8 年度に迎える法人設立 50 周年に向け、新たな理念のもと、法人の原点とこれまでの歩みを大切にしながら、地域に必要とされる社会福祉法人づくりを進めてまいります。

以下令和７年度の事業報告になります。

① 主な整備関係（10,000 千円以上のもの）

ホームゆい（日中サービス支援型共同生活援助）建築工事

211,200 千円

相談支援事務所棟建築工事

105,336 千円

アイヴィレッジ南側造成工事

18,260 千円

②重点項目について（令和７年度事業計画より）

（1）足利・佐野・館林地区における障がい福祉事業の更なる拡充に努める

各事業所にて新規の利用希望の方の受け入れを行い、11 月にホームゆいが開設するなど、地域の福祉サービス向上に努めました。

令和７年度　総延べ利用者数（前年度比）

日中事業：92,908 名（+2,168 名）　　居住事業：72,077 名（+2,025 名）

(2) 法人理念の再構築及びその浸透事業

7 月に、法人理念を「誇りある毎日を共につくりあげよう」として再構築し、法人に関わるすべての人が、自分らしく誇りを持って過ごせるよう、共に歩んでいくことを目指すものとしました。また、理念の浸透に向けて、全職員へのスタイルブックの配付や研修を実施し、各事業所での実践に向けた取り組みを行いました。

(3) 相談支援体制の強化と充実

相談支援専門員を 1 名増員するとともに、地域支援部会での取り組みを進めました。また、稲岡町に相談支援事業所棟を建築し、相談支援体制の強化を図りました。

(4) 人材育成に特化した研修、会議、委員会の拡充及び外部コンサルタントの導入

既存の研修プログラムに加え、理念浸透に向けた外部講師による研修を実施しました。また、令和 8 年度に向けて、人財育成を中心とした会議・委員会体制の構築を検討し、翌年度の活動をより充実させる基盤を整えました。

(5) 事業の可視化と公正な評価の実施

ホームページでの情報公開や見学会の開催を通じて、事業内容の周知と理解促進を図りました。また、外部専門家の意見を取り入れ、より客観性のある事業運営に努めました

(6) 職員等の資格取得支援制度活用を推進

令和 7 年度は 7 名がこの制度を活用し、資格取得を行いました。

（社会福祉士：1 名、精神保健福祉士：1 名、介護福祉士：1 名、社会福祉主事：2 名　他）

(7) 自然災害や非常時における避難確保体制の構築

BCP（事業継続計画）等に基づき、災害時を想定した避難訓練等を実施しました。

(8) 職員へのストレス軽減活動の推進と虐待防止のための体制の構築

管理者やサービス管理責任者による面談を継続的に実施し、職員の状況把握や支援の質の向上に努めました。また、各部会において職員が主体となり、虐待防止や身体拘束の適正化に関する理解を深め、日々の支援に反映できるよう取り組みました。

(9) 本部および事業所間の意思疎通と連携の強化

管理者による経営会議を毎週開催し、法人運営に関する課題や方針の確認を行いました。また、各事業所のサービス管理責任者が参加する「事業所連絡会」を月 1 回オンラインで開催し、事業所間の情報共有を進めました。さらに、本部棟の建築により法人運営の拠点を整備し、組織的な運営体制の充実を図りました。

(10) 地域医療との連携強化

嘱託医、産業医と連携するとともに、新たに訪問診療や歯科を導入し、重度化・高齢化する利用者様の支援に努めました。

(11) 利用者様への更なる健康・生活支援の向上と強化

利用者様への健康・生活支援の向上に向けて、既存の往診体制に加え嘱託医との連携を強化するとともに、陽光園では看取り支援にも取り組みました。また事故等の発生を受け、職員への救急救命研修やマニュアルの整備を行いました。

(12) 職員の確保及び定着のための福利厚生の充実

手当の増額や拡充を行い、職員の働きやすさの向上を図りました。また、就職説明会や実習の受け入れ等を積極的に行い、職員の確保に努めました。

(13) 事業活動圏域で更なる成長をするために、他事業者（法人）との事業科目の差別化と拡充

就労支援事業所では高工賃の維持向上に努めました。介護部会主体の芸術活動では、利用者様の作品が県レベルの外部コンクールにて特別賞を受賞するなど、成果が出ております。

（14）ICT や介護ロボットを活用した業務効率の改善

記録や送迎表の策定等に AI 技術を導入しました。また、生成 AI 技術の活用に向けて外部講師による研修を実施しました。

③法人の運営

（1）人材の確保及び資質の向上

求人については、職種や雇用形態に応じた募集方法を活用し、必要な人材の確保に努めました。あわせて、職員の育成や資質向上を組織的に進めるため、令和 8 年度からの会議・委員会体制の見直しを検討し、人材育成を推進するための基盤づくりを行いました。その他研修の実施等は部会報告参照。

（2）経営基盤の強化

各事業所利用者様の利用率向上に努めました。

２． 各事業所の状況

（１）足利愛光園（生活介護：10 名、就労継続支援Ｂ型：30 名）

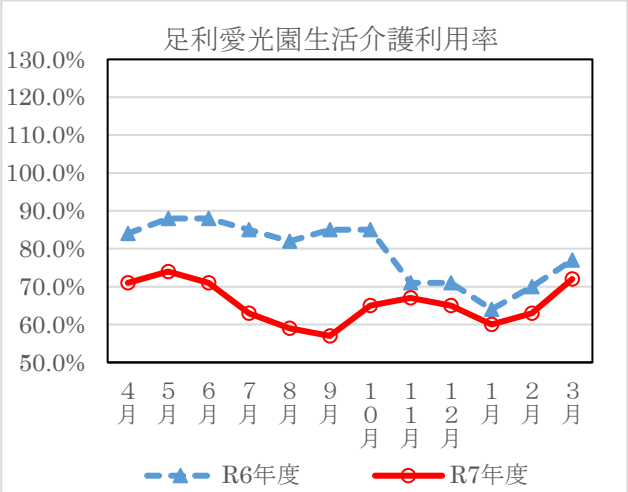
a 概況

・令和 7 年度は、主要な洗濯機械のトラブルもなく、計画通りに生産活動（クリーニング業務）を行うことができました。また、作業量も概ね確保することができました。
・取引先との価格改定により、物価高騰に対する対応を行いました。
・排水処理設備の一部においては、特殊な塗装等による工事で対応し、長期の運用、ならびに健康被害の予防に備えました。
・就労継続支援 B 型の利用者様については、作業特性を活かした配置を行ったことで、作業効率や作業意欲の向上が見られました。
・気温の高い日が長く続き、洗濯工程（連洗投入・ワッシャー出し入れ）に携わるスタッフおよび利用者様にとって負担の大きい時期については、熱中症予防として健康状態の把握、休憩時間の延長、スポーツドリンクの提供等を実施し、安全に夏を乗り越えることができました。暑い時期にはアイスクリームを全員に提供し、大変好評を得ました。
・水族館や動物園等への外出レクリエーションを開催し、より楽しみを持って生活していただけました。
・事業所内レクリエーションでは餅つき行事を開催し、クリスマスにはプレゼントを配布いたしました。
・誕生月の利用者様には、個別にプレゼントと記念写真を贈呈いたしました。

b 利用率の推移

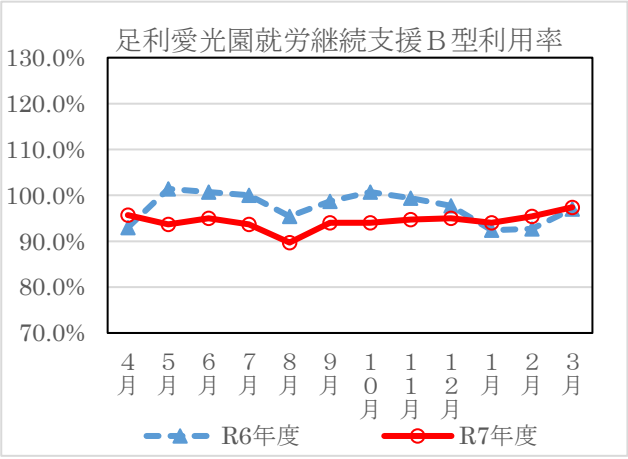
生活介護

定員	10 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	2,025 名
平均利用者数	6.5 名
平均利用率	65.1%
平均区分	4.1



就労継続支援Ｂ型

定員	30 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	8,787 名
平均利用者数	28.3 名
平均利用率	94.2%
平均工賃	48,170 円



※以下就労継続支援 B 型は平均工賃、
生活介護は平均区分を示しております。

（２）愛光園ホームあすか（共同生活援助：28 名）

a 概況

・昨年度に引き続き、感染症等に注意しながらの生活全般の支援を行いました（マスクの着用、手指消毒、取手等の消毒、トイレ・洗面所・共同使用箇所の消毒の徹底、買い物代行等）。また、毎朝の検温、健康状態の把握を行う事で、感染症等の早期発見、感染拡大リスクの軽減に繋がりました。

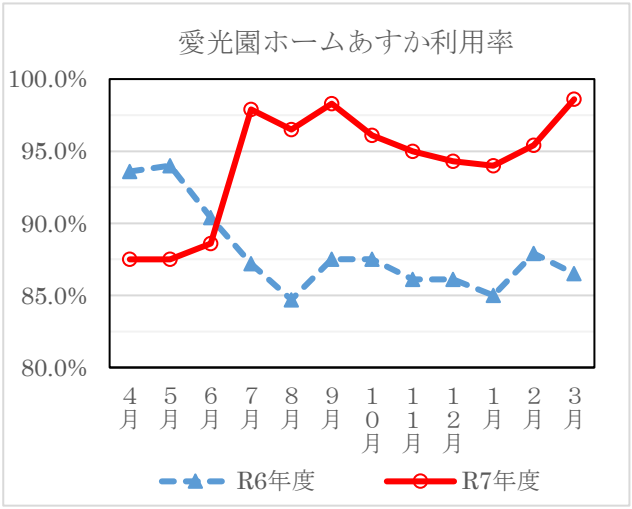
・感染発生時にはホーム内の制限、日中活動への利用の自粛等を実施し、利用者様にも感染リスクの軽減に協力いただきました。

・レクリエーションについては、職員の手作り食事提供や一緒に行う手芸活動などを取り組みました。

4 月　お花見・市内散策
6 月　うちわ作りにチャレンジ（制作活動）
7 月　スイカデザートレク
8 月　納涼会（花火）
10 月　手作りハロウィンデザート（シャインマスカットパフェ）
11 月　ミニクリスマスツリー作りにチャレンジ（創作活動）
12 月　外食レク（お寿司・ハンバーグ等）
2 月　節分レク
　　お花見レク

b 利用率の推移

定員	28 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	9,600 名
平均利用者数	26.3 名
平均利用率	93.9%



（３）フルーエ（生活介護：20 名）

a 概況

・感染症対策（テーブル上のパーテーションの設置。マスクの着用。うがい手指消毒。送迎車内の消毒。ホール内の消毒。換気の徹底等）を通年行ってきました。また、感染症に対する職員の知識を高めるために研修も行いました。

・上半期、下半期の 2 度にわたり個別の外出レクを行ない、利用者様に喜んでいただきました。また、昨年度に引き続きテイクアウト、出前等、普段食べられないものを提供しました（海鮮丼やお弁当等）。

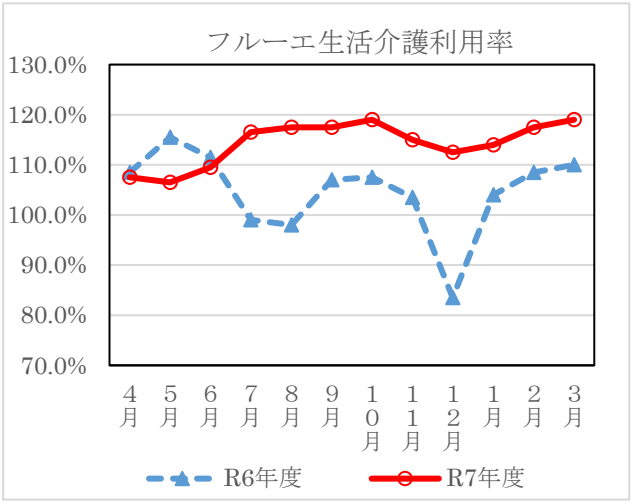
・行事についてはホール内を中心に行いました。(開設 7 周年記念、夏祭り、ハロウィンパーティー、芋煮会、クリスマス会、新年会等)

・入浴日と活動日を分けて取り組むことで、活動日には音楽活動や創作活動を楽しんでいただきました。創作活動の中では法人内の作品コンクールへ数多くの作品を出品できました。その中で、利用者様の製作した作品が、外部の作品展で特別賞を受賞するなど、法人外への作品展へも積極的に参加いたしました。

・生産活動を希望する利用者様も多く、活動を調整しながら提供を行ないました。

b 利用率の推移

定員	20 名
開所日数	310 日
延べ利用者数	7,071 名
平均利用者数	22.8 名
平均利用率	113.9%
平均区分	4.9



（4）愛光園障害者相談支援センター 共生

指定特定相談支援事業所の名称	愛光園障害者相談支援センター共生		
主な対象市町名	栃木県足利市、佐野市、群馬県館林市		
職員配置の状況	3名	職種等	資格等
	常勤	相談支援専門員	社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員
	常勤	相談支援専門員	社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、介護支援専門員
	常勤	相談支援専門員	相談支援従事者研修終了

業務項目	業務の実施方針等	回数、件数、開催時期等
① サービス等利用計画およびモニタリングの実施	○利用者様がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるような計画を作成しました。 ○利用者様の意思及び人格を尊重して、利用者様の立場に立ち計画の作成を行いました。	随時 成人　151件 児童　1件
	○利用者様の希望や目標の達成状況などを含めて、モニタリングを実施し、生活の向上を目指す支援を行いました。	・モニタリング時期 ・状況の変化に応じて 成人　411件 児童　0件
② 関係機関との連携	利用様者の望む生活が実現できるよう、市町、障害福祉サービス事業者等との連携を図りました。	随時
③ 法人内の部会との連携	法人内の部会委員会（就労、介護、居住）に参加して法人内の各部会の取り組み等を相談支援部内で共有しました。各部会の参考になる情報提供等も行いました。	月1回程度
④ 法人内研修の補助	虐待防止研修等の講師を行いました。事業所の困難ケースの個別支援会議の手法等を事業所の職員と一緒に行い体験して頂きました。	要請により実施

（５）一歩（就労継続支援Ｂ型：20 名）

a 概況

・令和 7 年度は約 50 回外部販売（イベント出店、定期販売など）を行いました。新規のお客様の獲得に努め、多くのお客様に購入していただきました。

・物価高騰の中、原材料の見直しや節電等を行い、価格改定を最小限に抑えました。また、パンの新商品販売を定期的に行うことにより、お客様に手に取っていただけるよう努めました。

・「音羽シェフ監修のパウンドケーキ」の商品化テストに合格し、商品化の準備を進めました。

・手洗い、消毒を確実に行い、食品に関わる事業所として、衛生管理と感染予防を徹底しました。

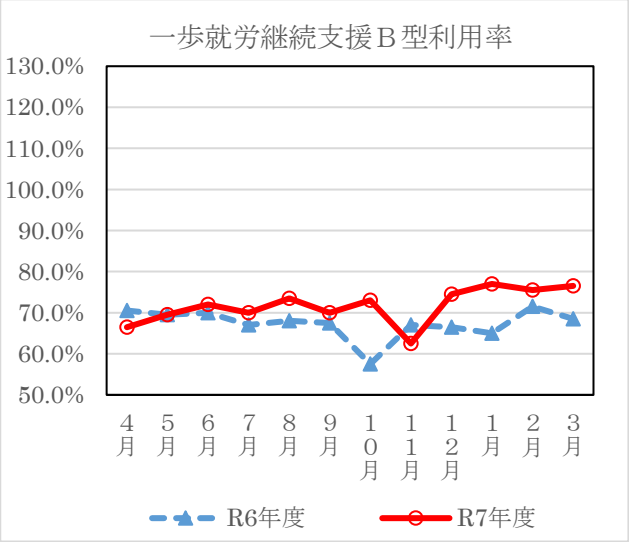
・レクリエーションは外出を中心に行いました。墨田水族館とスカイツリー観光や劇団四季のミュージカル鑑賞、外食などを実施しました。

・利用者様の作業を定期的に配置換えし、それぞれの障がいの程度や特性に応じた作業と支援の提供を行い、また、新たな作業領域への挑戦など一人ひとりの能力の向上に努めました。

b 利用率の推移

定員	20 名
開所日数	272 日
延べ利用者数	3,885 名
平均利用者数	14.3 名
平均利用率	71.4%
平均工賃	23,134 円

※延べ利用者数、平均利用者数、平均利用率は施設外就労 1,016 名/年を除く



（６）陽光園【障害者支援施設（生活介護：30 名、施設入所：30 名、短期入所：3 名）、愛光園ホーム（福祉ホーム）５名】

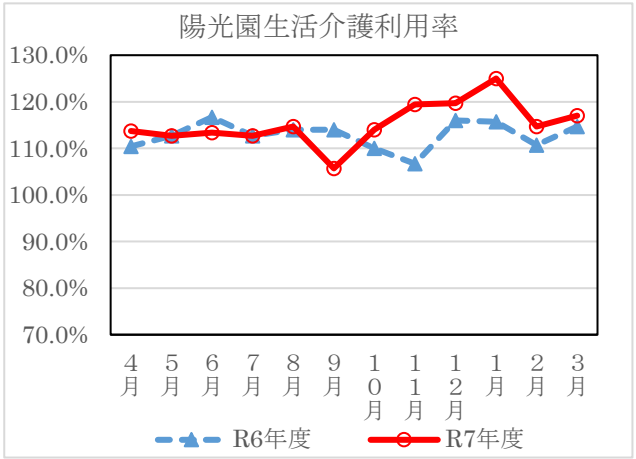
a　概況

・法人内の生活介護事業所として最重度の方に多くご利用いただき、定員（30 名）を上回る利用率になりました。　※令和 8 年 4 月から定員を（35 名）に変更。
・生活介護では、特殊浴槽を使用した入浴支援の提供や、レクリエーション活動、芸術作品の制作など、日常生活を通じて利用者様のニーズに応じた支援メニューを提供いたしました。
・施設入所支援では法人で初めて看取りの支援を実施いたしました。
・夏祭りやクリスマス会など、季節感を取り入れたイベントを実施し、多くの利用者様にご参加いただき楽しんでいただきました。
・施設入所および短期入所においては、少人数での外出イベントや季節ごとの夕食会を開催し、日常生活を楽しんでいただけるようサービスを提供いたしました。
・外国人技能実習生の受け入れ 2 名を実施いたしました。また、翌年度に向けて、体制の整備や職員研修を実施し、新たな受け入れの準備を進めました。

b　利用率の推移

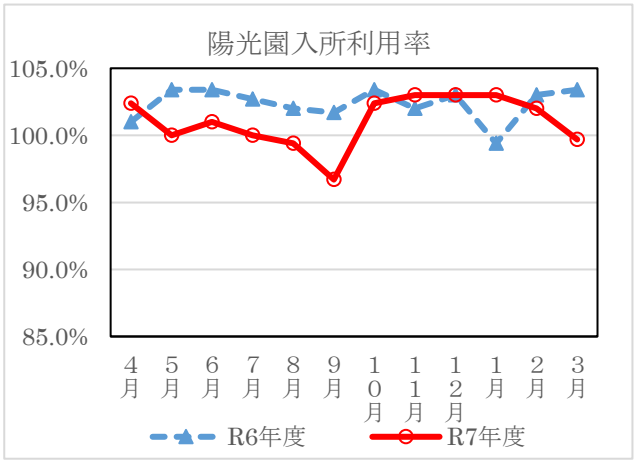
生活介護

定員	30 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	10,729 名
平均利用者数	34.5 名
平均利用率	115.0%
平均区分	5.7



施設入所支援

定員	30 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	11,050 名
平均利用者数	30.3 名
平均利用率	101.0%



短期入所

定員	3 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	729 名
平均利用者数	2.0 名
平均利用率	66.6%

（７）共働舎（生活介護：20 名）
愛光園（就労継続支援Ｂ型：40 名）

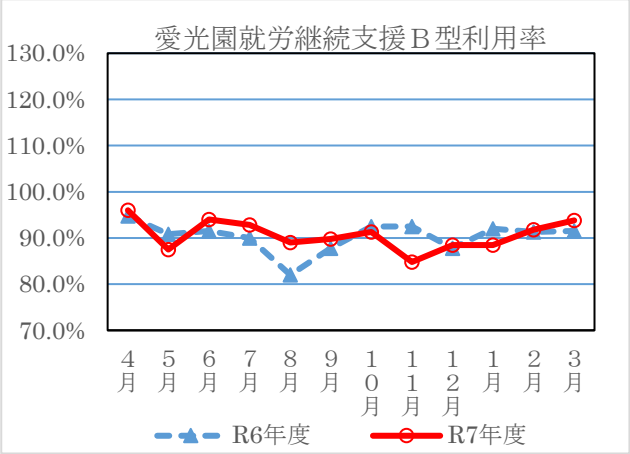
a 概況

・クリーニングの生産状況については年間を通しておおむね良好に推移しました。
・元請け会社様に対して単価の見直しをお願いし、ご協力いただきながら収益の安定化に努めました。また、事業所内でも経費削減に取り組み、物価上昇に対応しながら利用者様の工賃向上につながるよう運営を進めました。
・夏場は気温の高い日が長く続き、クリーニング作業に従事する利用者様や職員にとっては、身体的負担の大きい時期となりました。こうした状況を踏まえ、利用者様一人ひとりの体調管理に十分に配慮するとともに、作業環境の整備や暑さ対策を行うことで大きく体調を崩すことなく安全に活動を継続することができました。
・共働舎では利用者様一人ひとりの障がい特性や作業の課題に応じた作業環境の改善に取り組みました。作業場所の配置や道具の置き方、作業量の調整などを見直し、利用者様が見通しを持って作業に取り組むことができる環境づくりを進めました。
・レクリエーション活動では、利用者様の余暇活動の充実を目的として外出の機会を設け、東京スカイツリーやすみだ水族館など行き先を 4 か所に分けて実施し、利用者様が楽しみながら社会参加できる機会となりました。また、事業所内ではクリスマス会を開催し、プレゼントの配布を行うなど季節を感じながら楽しめる行事を実施しました。

b 利用率の推移

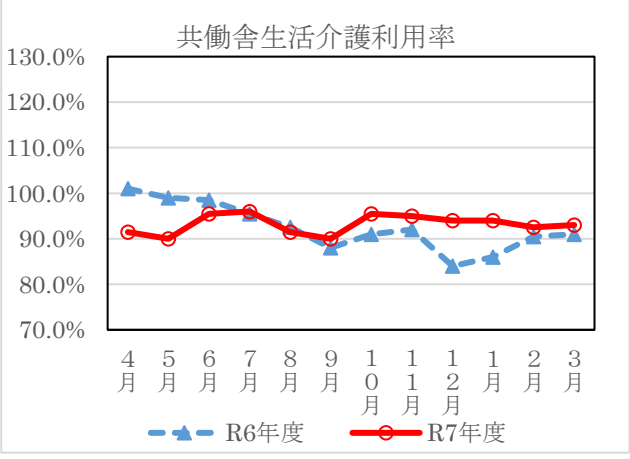
≪愛光園（就労継続支援Ｂ型）≫

定員	40 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	11,695 名
平均利用者数	37.6 名
平均利用率	94.0%
平均工賃	48,001 円



≪共働舎（生活介護）≫

定員	20 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	5,782 名
平均利用者数	18.6 名
平均利用率	93.0%
平均区分	4.7



（8）ホームゆい（共同生活援助：20 名、短期入所：4 名）

a 概況

・令和 7 年 11 月に、共同生活援助（10 名）、短期入所（2 名）で開所し、令和 8 年 2 月に、それぞれ 20 名と 4 名に定員を変更いたしました。

・日中サービス支援型グループホームとして夜勤体制を整え、24 時間体制による身体介護や行動支援など、重度の障がいのある方への居住支援を提供しております。

・食事は、普通、一口大、刻み、極刻みなど利用者様一人ひとりにあった食事形態を提供しました。

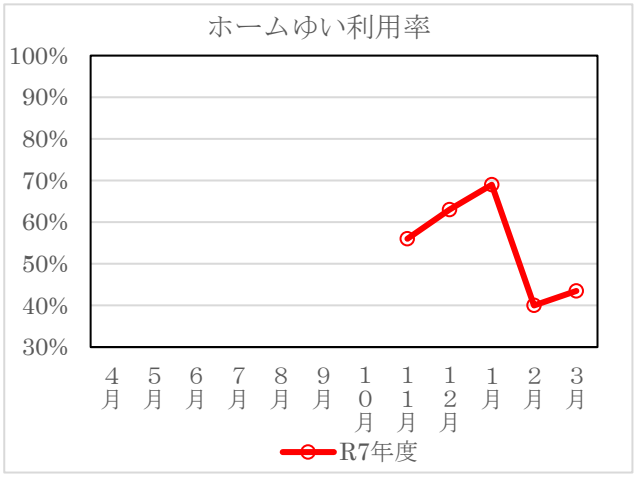
・短期入所サービスにおいては、家庭の事情や障がい特性など受け入れの問い合わせが多くありました。

・医療面の対応としては、訪問診療を取り入れ、通院が困難な方でも定期的に診察を受けられる環境を整えました。また、夜間についても、24 時間訪問診療所に相談可能なため、看護師と訪問診療の協力体制構築に努めています。

b 利用率の推移

共同生活援助

定員	20 名
開所日数	151 日
延べ利用者数	1,064 名
平均利用者数	7.0 名
平均利用率	50.3%



短期入所

定員	4 名
開所日数	151 日
延べ利用者数	8 名
平均利用者数	0.1 名
平均利用率	1.3%

（9） アイタウン【ホームほのか（共同生活援助：30 名）、ホームひだまり（共同生活援助：30 名）】

a 概況

・身体機能や認知機能の低下が見られる利用者様に対し、必要な支援および介助を提供いたしました。その際には、利用者様一人ひとりのニーズに応じつつ、残存機能を維持・活用を意識し、過度な支援とならないよう配慮いたしました。

・日曜日を中心に地域主催のモルックやペタンクに参加し、休日余暇活動の充実に努めました。自治会長から定期的に参加の声掛けを受け、地域の方々と交流しながら活動へ継続的に参加することで関係性を構築し、利用者様の地域参加が定着しました。

・口腔ケアの一環として、歯科治療や定期健診を積極的に実施し、25 名の利用者様が歯科通院を行いました。そのうち 13 名が治療を完了し、12 名が定期クリーニングなど継続して受診している状況となりました。

・通所事業所と密に報告・連絡・相談を行い、利用者様の体調面・精神面の安定を図りました。

・レクリエーション活動は、季節行事や手作り料理、外出を中心に実施いたしました。

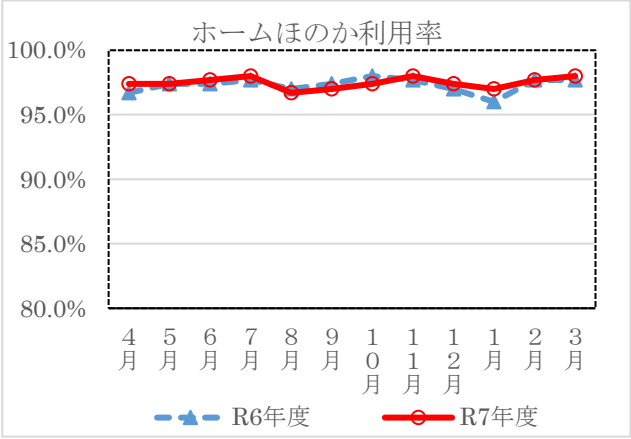
＜令和 7 年度実施レクリエーション＞

4 月	イオン買物、手作りちらし寿司	11 月	手作りカレー
5 月	カラオケ、弁天池ドライブ	12 月	クリスマス会（カラオケ、ディナー）
6 月	花壇整備、カラオケ	1 月	初詣、書初め
7 月	外食（日高屋）、手作り焼きそば	2 月	恵方巻とつみれ汁
8 月	ドライブ、外食（いも家 kaneki）	3 月	イオン買物、手作りビーフシチュー
10 月	花火、テイクアウト（すき家）		

b 利用率の推移

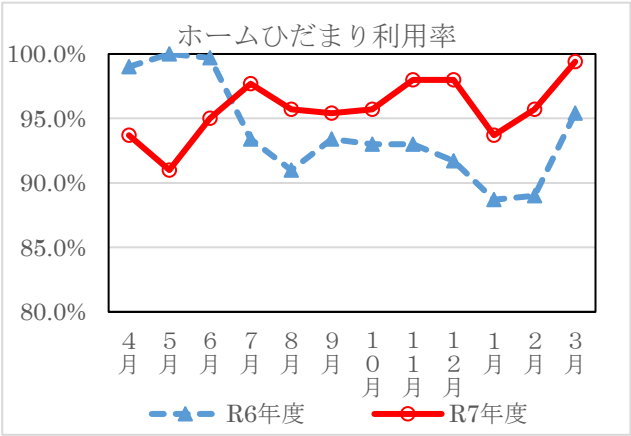
≪ホームほのか（共同生活援助）≫

定員	30 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	10,654 名
平均利用者数	29.2 名
平均利用率	97.3%



≪ホームひだまり（共同生活援助）≫

定員	30 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	10,468 名
平均利用者数	28.7 名
平均利用率	95.6%



（１０）彩光園（生活介護：30 名、就労継続支援Ｂ型：10 名）

a 概況

・作業面では、クリーニングのたたみ作業に加え、キャスター製造（梱包・仮組・組付け）を継続して実施いたしました。より多くの利用者様が作業に取り組めるよう、作業環境や作業手順の見直しを行い、作業効率の向上に努めました。また、作業場のレイアウト変更や作業提供方法の工夫を通じて、利用者様が安心、安全に作業に取り組める環境づくりを推進しました。

・10 年目を迎えた施設外就労は、協力企業様と良好な関係を築くことで、クリーニングの前処理作業を中心に多様な業務を継続して任せていただいております。また、請負報酬の改定にもご協力頂き、工賃向上を実現できました。その結果、利用者様一人ひとりが作業への責任感や達成感、自信を持って取り組むことができ、重要なステップアップの場となっております。

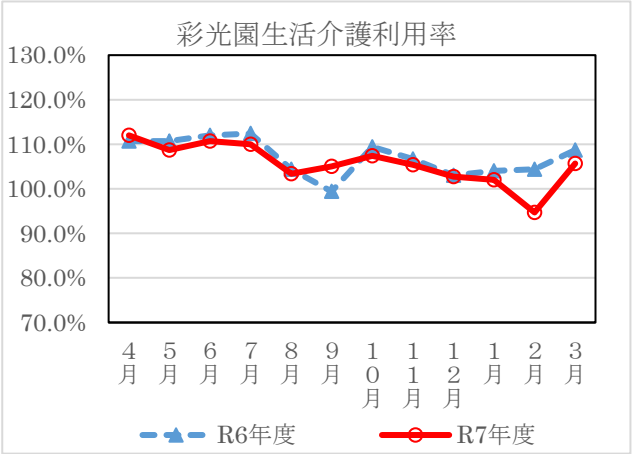
・生活介護では、外出活動も積極的に取り入れ、人とのコミュニケーションや季節感を感じていただけるよう、日々のレクリエーションの充実を図りました。特に、近年力を入れている芸術活動では、創作の楽しさを感じていただくと同時に、利用者様の可能性の創出や障がいへの理解を深める貴重な機会となっています。地域公民館等での作品展示も継続し、法人および障がい者への理解促進や地域とのつながりの強化にもつながっております。一人ひとりに合った個別支援を大切に、日々の生活の充実を図るとともに、特別支援学校からの実習受け入れも積極的に行いました。

・利用者様のご家族、グループホーム、関係機関との積極的な情報共有を通じて連携を密にし、より一層の個別支援の充実と利用者様の新規獲得に努めました。

b 利用率の推移

生活介護

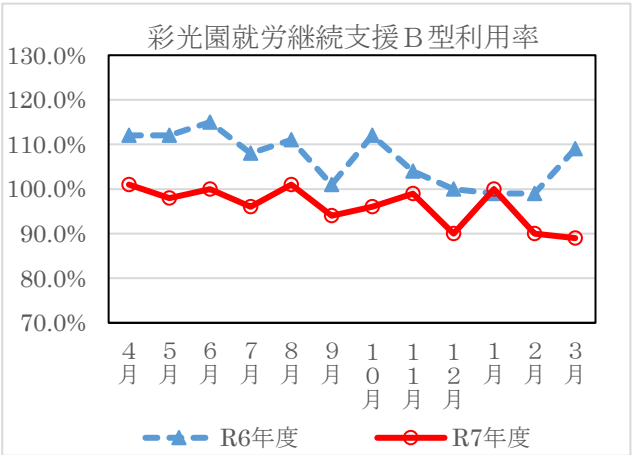
定員	30 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	9,848 名
平均利用者数	31.7 名
平均利用率	105.6%
平均区分	5.1



就労継続支援Ｂ型

定員	10 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	2,971 名
平均利用者数	9.6 名
平均利用率	95.5%
平均工賃	39,522 円

※延べ利用者数、平均利用者数、平均利用率は施設外就労 1,502 名/年を除く



（１１）ないろ（放課後等デイサービス、児童発達支援：10 名）

a 概況

・利用児支援について「5 領域」の定着に努めました。様々な事例の協議や保護者、関係機関との連携等により、児童の将来を見据え、多様な視点からの総合支援に取り組んできたことにより、ご家族からお子さまの様子や困りごとなどを積極的に発信していただけた一年でありました。また、「自己評価表」においても、ご支持をいただくとともに率直な思いをうかがうこともできました。

・日々の活動として、季節の工作や行事、野菜の栽培・収穫、外出レク等は今年度も大変好評でした。また、佐野市レクリエーション協会の方々をお招きして、紙飛行機飛ばしやゲームなど、地域交流を楽しみました。

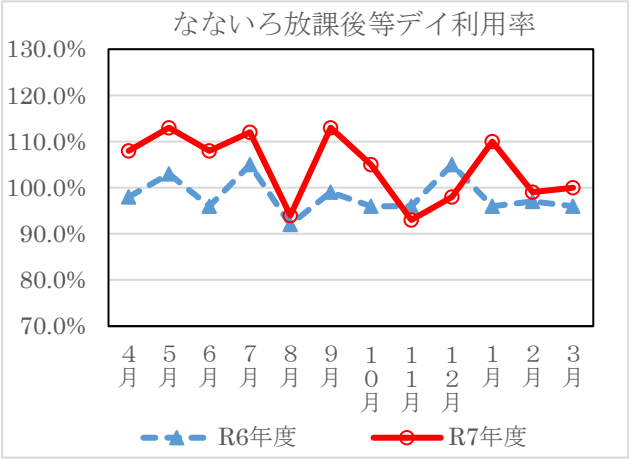
・安全管理として主に救急、災害、衛生等の職員研修及び実際の場を想定した児童指導を行いました。ご家族へは、日々の送迎時や月の広報誌で周知し、ご理解をいただきました。

・法人内の事業所見学会を複数回にわたり開催し、多くの児童とご家族が参加されました。「見学できて良かった。」「子どものライフプランの見通しが立てやすい。」など、保護者から安堵の声が多数寄せられました。

b 利用率の推移

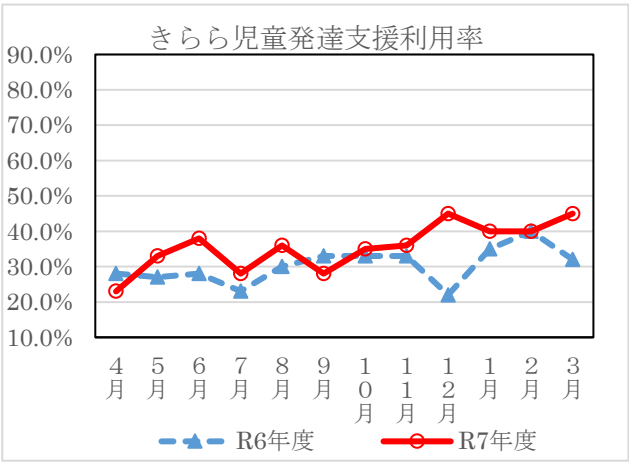
放課後等デイサービス

定員	10 名
開所日数	292 日
延べ利用者数	3,033 名
平均利用者数	10.4 名
平均利用率	104.0%



児童発達支援

定員	10 名
開所日数	50 日
延べ利用者数	177 名
平均利用者数	3.5 名
平均利用率	35.4%



（１２）ホームかがやき（共同生活援助：26 名）

a 概況

・かがやき棟・きらめき棟の定員は共に 10 名、ひばり棟の定員 6 名、3 棟の合計定員数は 26 名となっております。令和 7 年度の平均利用者数は 24.5 名でした。入退所者により入居数に変動のある 1 年でした。

・障害支援区分は、区分無しの軽度の方から区分 6 の重度の方まで様々です。棟ごとの平均区分の内訳は、かがやき棟 4.4、きらめき棟 5.1、ひばり棟 1.8 となり、かがやき・きらめきに関しては障がいが重度の方も多くご利用いただいております。3 棟の平均区分は 3.8 となります。

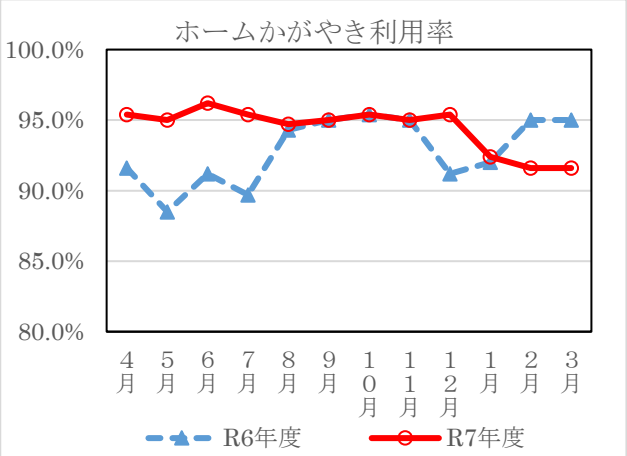
・個別支援計画を基に、利用者様のニーズを第一に考えた支援を実施しました。定期的な見直しを行い、状況変化に応じた柔軟な対応に努めました。また、敷地内の日中活動事業所との情報共有を密に行うとともに、外部通所先とも報告・連絡・相談を行い、利用者様が安心して生活できる体制維持に努めました。

・感染症の影響を踏まえつつ、可能な範囲で地域との関りを持つ機会を確保し、利用者様が地域住民として生活できるよう支援を行いました。また、日々の体調管理や服薬支援を通じて健康維持に努めるとともに感染症対策として手指消毒や体調チェック等を継続して実施しました。

・令和 7 年度は、感染症対策を継続しながらも、利用者様の生活の質を維持・向上させるための支援を実施しました。

b 利用率の推移

定員	26 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	8,939 名
平均利用者数	24.5 名
平均利用率	94.2%



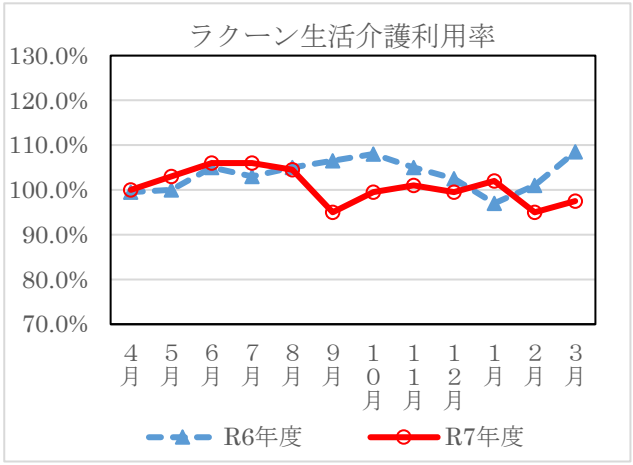
（１３）ラクーン（生活介護：20 名）

a 概況

・買い物支援、外食、美術館での絵画の鑑賞等、去年に続き外出レクを行いました、毎月少人数にて利用者様全員が外出に参加する事ができました。
・法人内の「創作・芸術作品コンクール」や地域の合同作品展に、利用者様の作品を出展し賞を頂く等、利用者様の余暇の充実に努めました。
・支援員会議、法人内介護部会、自立支援協議会のケース検討勉強会や ZOOM 等の WEB 研修を活用し、職員のスキルアップに努めました。
・春祭りや夏祭り、ハロウィン、クリスマスと季節ごとにレクを行い、景品や豪華な昼食やおやつを楽しんで頂きました。
・内職、カラオケ、ドライブと毎日午後の活動を選んで頂くことで、充実した日中活動を送って頂きました。

b 利用率の推移

定員	20 名
開所日数	310 日
延べ利用者数	6,234 名
平均利用者数	20.1 名
平均利用率	100.5%
平均区分	4.9



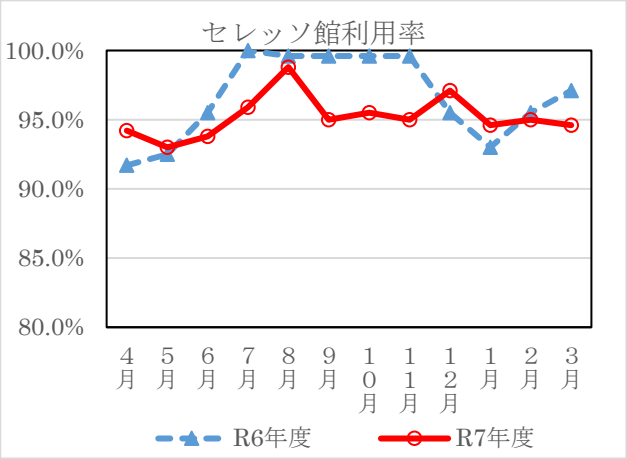
（１４）セレッソ館（共同生活援助：24 名）

a 概況

・昨年度に引き続き 24 名で定員満床を継続しております。
・法定研修について、各種研修、訓練を確実に行い利用者様、スタッフ共に意識の向上に努めました。
・法人内外の研修や勉強会に参加し、スタッフの知識、技術の向上に努めました。
・健康管理に焦点をあて、体重管理を実施しました。食事や運動等、個別の対応を協議、実施し、BMI 値の適正化を図り、一定の水準を維持できるようになり、定期通院の削減に取り組む事が出来ました。
・夏祭りやクリスマス、年末年始等、レク食を提供し利用者様に喜んで頂けました。
・5S 遂行により、安心、安全、清潔な環境を整える事が出来ました。
・令和 7 年 7 月に県の指導監査を受け、文書による指摘事項は無く、概ね良好な運営との評価を頂きました。法令遵守にて業務遂行を行う事継続していきます。

b 利用率の推移

定員	24 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	8,321 名
平均利用者数	22.8 名
平均利用率	95.0%



（１５）三桝屋總本店（生活介護：10 名、就労継続支援 B 型：10 名）

a 概況

（就労継続支援 B 型）

・法人内 GH 及び特別支援学校卒業生、市内相談支援機関からの受入れを積極的に行い、昨年以上に利用者様の利用率向上を達成する事ができました。

・物価高騰、消費停滞等、厳しい状況が続いている中、製造販売に関して、さらなる経費削減、業務効率化を図ると共に、施設外就労についても安定して実施し、昨年同様の工賃支給をすることができました。

・都内へ日帰り旅行を企画し、公共交通機関の利用や懐石料理を堪能して頂くことで、作業以外の利用においても充足感を味わっていただくことができました。

（生活介護：みますやあかでみぃ）

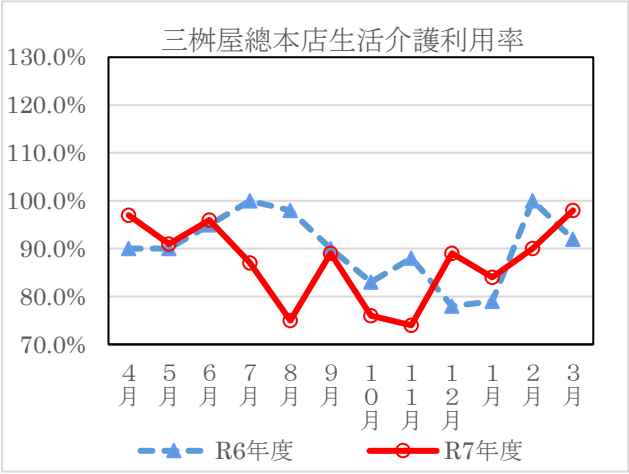
・就労継続支援 B 型や一般企業からの軽作業、市内駐車場清掃へ参加する事で、利用者様の就労へのやりがいの向上と充実を図ると共に、来年度へ向けた新しい就労科目への挑戦へ目を向けることができました。

・事業所内でのカラオケや散歩、手作りおやつ、都内への外出レクリエーションを企画し、利用者様が満足して頂けるよう努めることができました。

b 利用率の推移

生活介護

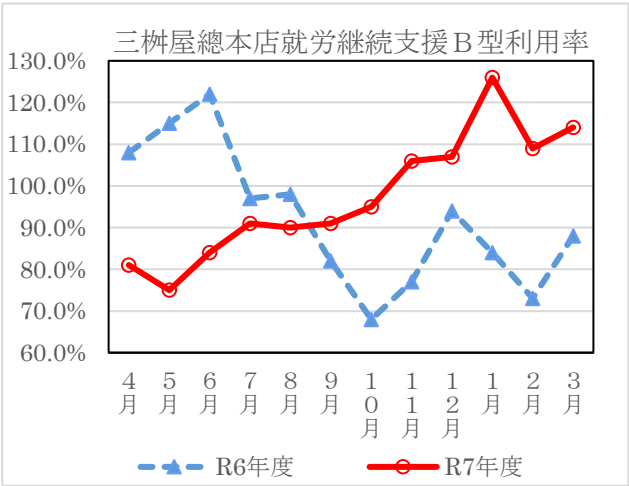
定員	10 名
開所日数	277 日
延べ利用者数	2,393 名
平均利用者数	8.6 名
平均利用率	86.4%
平均区分	3.9



就労継続支援 B 型

定員	10 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	3,002 名
平均利用者数	9.6 名
平均利用率	96.2%
平均工賃	38,001 円

※延べ利用者数、平均利用者数、平均利用率は施設外就労 1,532 名/年を除く



（１６）ホームみやび（共同生活援助：15 名）

a 概況

・屋外活動を積極的に行い、カブト虫取り、蛍鑑賞、花火大会等、地域において、季節を感じて頂けるレクを実施しました

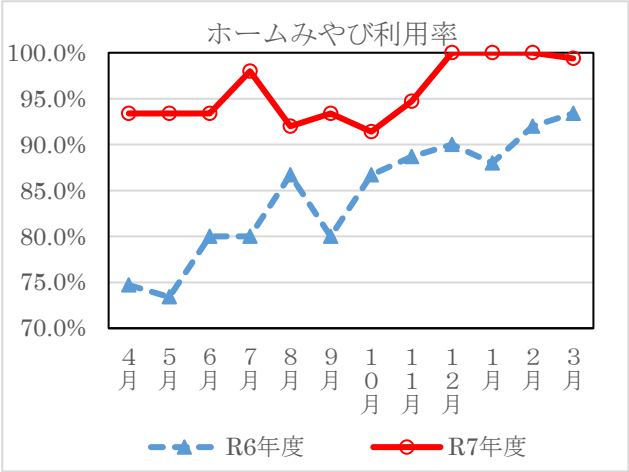
・地域への移行を希望する方に食事に関する支援（メニュー、食材調達、調理、後片付け）を行う事が出来ました

・毎年 2 月に行われる、1 市 5 町の合同作品展に出品しました。余暇活動の一環として、個人、団体とも芸術活動に積極的に支援を行うことができました

・市内の飲食店にて利用者様と職員の食事会を行い、親睦を深めることができました。

b 利用率の推移

定員	15 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	5,226 名
平均利用者数	14.3 名
平均利用率	95.5%



（１７）カレンフィールド（生活介護 30 名、就労継続支援 B 型：10 名）

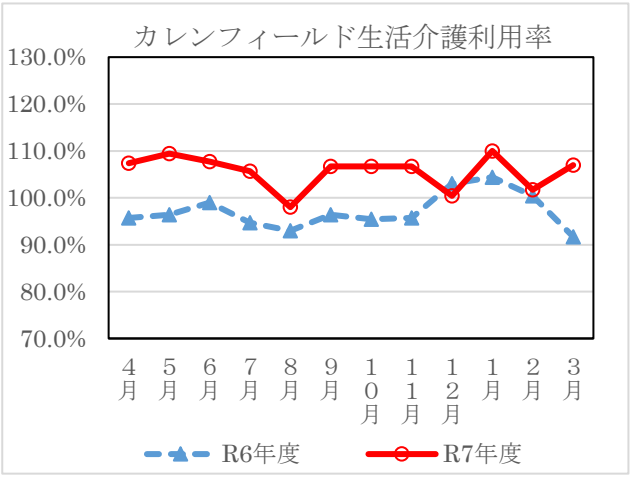
a 概況

・開設から 5 年目を迎え、地域から多くの利用希望を頂いております。1 日あたりの平均利用人数は 30 名を超え、多い日には 35～37 名の利用者様にご利用いただきました。
・元々病院であった広い建物を活かし、障がいの特性に応じた空間を整備することで、利用者様が落ち着いて過ごせる環境づくりに努めました。今後も地域における重要な社会資源として邁進してまいります。
・同一建物内に併設されている共同生活援助事業所「カレンホーム」と密に連携し、利用者様が 365 日 24 時間安心して過ごせる体制を整え、安定した生活支援に努めてまいりました。
・設備、施設の老朽化に伴い雨漏りなどの不具合が生じていたため、各種修繕やエアコンの交換を行い、利用者様に快適な利用空間の提供を図りました。
・生活介護では午前中は入浴支援を中心に行い、午後にはカラオケ、散歩、ドライブ、屋外活動などのレクリエーションをはじめ、リハビリを目的とした運動支援も含め多様なプログラムを利用者様の希望に応じて提供しており、ご好評をいただいております。
・就労継続支援 B 型に関しましては、法人内で保管されている書類のデータ化、裁断業務を行うほか、内職作業を取り入れてサービスを提供してまいりました。今後は選択肢のさらなる拡充を視野に入れ、充実した日中活動を提供できるよう、職員一同取り組んでまいります。
・昨年度に引き続き地域に根差した事業所を目指し、日本文化遺産に登録されている茂林寺沼での清掃活動に参加いたしました。また、地域の高校が取り組む環境活動にも協力し、葦を活用したストロー製作を継続的に実施しました。
・書類業務の DX 化を心掛け、記録類の電子化等さらなる業務改善に努めました。

b 利用率の推移

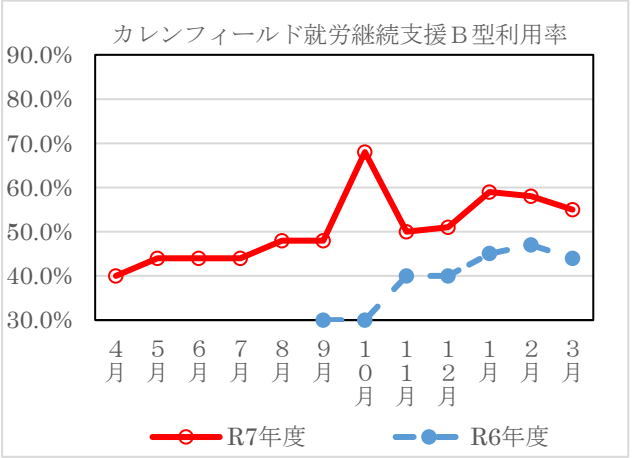
生活介護

定員	30 名
開所日数	311 日
延べ利用者数	9,837 名
平均利用者数	31.6 名
平均利用率	105.4%
平均区分	5.6



就労継続支援 B 型

定員	10 名
開所日数	276 日
延べ利用者数	1,389 名
平均利用者数	5.0 名
平均利用率	50.3%
平均工賃	14,935 円



（１８）カレンホーム（共同生活援助：20 名、短期入所：5 名）

a 概況

・日中サービス支援型のグループホームとして夜勤体制を整え、24 時間体制による身体介護や行動支援など、重度障がいのあるの方への居住支援を提供しました。

・毎年恒例となった明和町の花火大会に合わせたレクリエーションを今年も実施し、利用者様にも大変ご好評をいただきました。

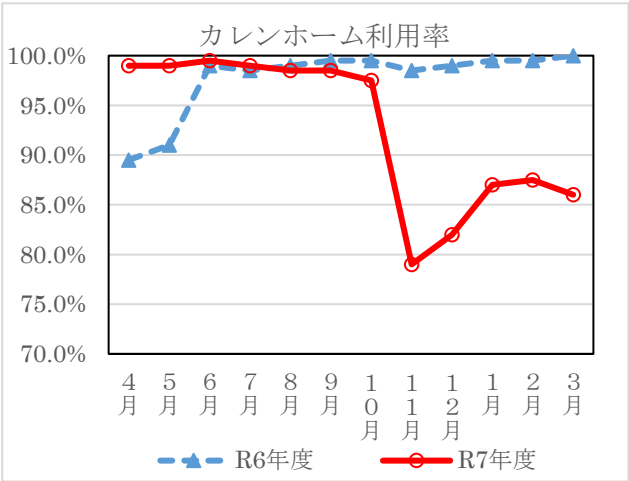
・短期入所サービスにおいては、5 名の定員で、利用者家族のレスパイトや家族の入院などにより一時的に利用したいなどのご要望にお応えできるようサービスを提供しております。

・医療面の対応としては、夜間オンコール体制の充実を目的に、外部事業者と契約を締結しました。これにより、職員が気軽に相談できる体制を整備するとともに、看護師の負担軽減にも努めました。

b 利用率の推移

共同生活援助

定員	20 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	6,755 名
平均利用者数	18.5 名
平均利用率	92.5%



短期入所

定員	5 名
開所日数	365 日
延べ利用者数	1,301 名
平均利用者数	3.6 名
平均利用率	71.3%

（１９）愛光園障がい者相談支援センターひかり～輝～（計画相談支援）

指定特定相談支援事業所の名称	愛光園障がい者相談支援センターひかり～輝～		
主な対象市町名	群馬県館林市、邑楽町、千代田町、板倉町、明和町、大泉町、栃木県足利市、佐野市		
職員配置の状況	2名	職種等	資格等
	常勤1名	相談支援専門員	社会福祉士、精神保健福祉士
	非常勤1名	相談支援専門員	社会福祉士、介護福祉士

業務項目	業務の実施方針等	回数、件数、開催時期等
⑤ サービス等利用計画およびモニタリングの実施	○非常勤1名を増員し、更なる地域ニーズに対応できるよう体制を整えました。 ○地域に根差し、利用者様の適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるような計画を作成しました。	随時 成人　79件 児童　32件
	○利用者様の希望や目標の達成状況などを含めて、モニタリングを実施し、生活の向上を目指す支援を行いました。	・モニタリング時期 ・状況の変化に応じて 成人　100件 児童　35件
① 関係機関との連携	○利用様者の望む生活が実現できるよう、市町、障害福祉サービス事業者等との連携を図りました。 ○1市5町で開催されている自立支援協議会に参画し、地域の困りごとや、今後の相談支援事業の拡充等に向けて話し合いを行いました。	随時

（２０）足利市障がい者基幹相談支援センター

障害者相談支援事業　実績報告書（令和 7 年度）								
障害者相談支援センターの名称等	足利市障がい者基幹相談支援センター							
対象市町村名	足　利　市							
職員配置の状況		職　種　等	資格等					
		センター長	こころのサポーター					
		主任相談支援専門員	社会福祉士、社会福祉主事、障害者上級ケアマネ研修修了、介護支援専門員、主任相談支援専門員、医療的ケア児等コーディネーター					
		相談支援専門員	社会福祉主事、高校 2 級社会科教員免許、手話通訳者、セルプ士、障害者上級ケアマネ研修修了、全リハ協アドバンスコース修了、ひきこもりサポーター、医療的ケア児等コーディネーター、発達障害者支援サポーター					
		相談支援専門員	精神保健福祉士、社会福祉士、社会福祉主事、介護支援専門員、公認心理師					
		相談支援専門員	介護福祉士、社会福祉主事、医療的ケア児等コーディネーター					
相談実績	相談実人数	397（内児童 56）						
相談形態（延べ件数）	電話・メール	来所	訪問	同行	関係機関	支援会議	その他	計
	973	214	265	101	587	7	84	2,231

処理（対応）実績（延べ件数）	
情報の提供	1,075
サービス利用の助言	342
サービス利用の申請援助	252
生活プラン作成援助	3
他機関紹介	19
相談支援事業所等への指導・助言	44
その他	1,093
合計	2,828

※相談形態と処理（対応）実績の件数については、1 件の相談で複数の処理（対応）をする場合もあるため、件数は一致しません。

○主な相談事例

身体障がい者：20 代男性、5 歳で視神経に腫瘍が見つかり、全盲となった。盲学校を卒業後に A 型に通所していたが、自立訓練施設を経て、他市で GH に入居して A 型を利用していた。家族の都合で、市内アパートで家族と住むことになり、同行援護を利用しつつ家から歩いて通える A 型を探し、市内の相談支援専門員が引継ぎ、同行援護を利用し行き帰りの経路が安全に歩けるかの練習を何度も行い、安全が確認されたため、A 型の 5 日間の体験利用を経て採用となった。アパートの近くの工場の脇を歩くため、本社に本人と行き、留意してもらうようお願いした。仕事は、検品等の視力を使った作業以外で、触ってできる仕事を行っている。事業所内での移動も構造に慣れ一人で移動をしている。事業所からは、本人の通勤により利用者の方々の気持ちが穏やかになって、良い影響を与えているとの話があった。

知的障がい者：市内北部山間に住む B1 の兄と B2 の弟(共に 50 代)で、弟が腹痛にて救急搬送され、早朝に救急隊か

ら電話あり、救急搬送したのですぐ来るように依頼があった。病院に駆けつけ、病院にてDrより、開腹手術を要するとの事で早めに処置しないと危険であるとの事で手術等の書類作成を支援した。その後、入院必要品の購入・準備等を支援し、兄が一人で家に居るが糖尿病の自己注射が必要であり、昼はヘルパーが入っているが、朝夕食は入院した弟が作っていたので、以前支援していた元民生委員に連絡を取り、状況確認を依頼した。確認の結果、食事等も運んでくれるとの事でお願いした。また、プラン作成の相談支援専門員に連絡し、主治医と連絡をとってもらいインシュリン注射について相談、訪問看護を手配してもらうなど、兄の支援を整えた。その後の弟の退院までの必要品の買い物や兄の状況確認、退院時の支援及び買物支援、退院後の受診の支援と買い出しの支援を行なった。
精神障がい者：40代男性。職場の人間関係がうまくいかず、精神的に落ち込み、市内の精神科病院を受診してうつ病と診断された。仕事を辞めてしばらくは治療に専念していたが、経済的にも厳しくそろそろ仕事をしたいと思い、主治医に相談したところ、就労支援の利用を勧められたとのことで、相談に来られた。本人は、就労支援の中でもA型の利用を希望。市内のA型事業所を数か所見学し、その中の1つの事業所で5日間の体験利用を実施した後、採用となった。現在も体調に波はあるものの、順調に通えている。

社会資源創出等に関する企画・提言（企画・提言の有無、内容、提言結果等を記載）

足利市地域自立支援協議会の各専門部会において、地域課題の協議を行った。
地域支援部会 1G(精神疾患のある方の地域課題の協議)
課題：①民生委員、精神科病院、介護支援専門員等の連携、②身体表現性障害のある方の支援
目的：①お互いの役割を知り、連携の促進を図る、②支援の現状の確認
協議結果（取組）①令和8年2月10日（水）に足利市地域包括支援センター協和・愛宕台で地区の民生委員に実施したアンケートを基に、御厨地区の民生委員との情報交換会を実施。精神障害のある方の支援機関等の資源が民生委員をはじめ住民にもあまり知られていないという結果から、市内の精神科を含むブースを設けて、民生委員が自由に個々のブースにて各機関等の説明を受けられるようにした。それぞれの役割や特徴について伝えることができた。②身体表現性障害のある方のピアサポーターやボランティアについて確認した結果、該当する取り組みはなく、ボランティアは基本的に施設に出向いてのものになっている。また、個人でＳＮＳなどを通して同じ病気や悩みをもつ同士がつながって交流していることを確認した。
地域支援部会 2G(知的・身体の障がいのある方の地域課題の協議)
課題：①地域の障害者とつながる機会が少ない、②地域住民に対して障がい（施設等を含む）周知が不十分、③地区社協と行政・関係機関との連携
目的：①②障害のある方の理解を深める、③障害のある方の生活を支えるために連携できる
協議結果（取組）：①② 各地区や社協での取り組み内容の共有を図った。今後、住民への障害のある方や支援機関等の理解を促進する取り組みを検討していく、③支援側の連携についても現状を共有した。今後、取組を検討していく。
就労支援部会（就労に関する課題の協議）
課題：①就労支援事業所等の周知、②部会員による市内の就労事業所の把握、③身近な地域で就労系事業所が学び合う機会の確保
目的：①②就労事業所の把握、③市内の就労系事業所での情報共有と支援の質の向上
協議結果（取組）：①「就労系事業所ガイドブック」（令和7年7月現在）の発行、編集と発行、②新規就労支援事業所の視察、③市内の就労系事業等の情報交換会の開催：第1回（令和7年9月）のテーマは「就労選択支援」で34名参加。第2回（令和8年2月）　テーマの「障害者雇用の支援と定着」で33名参加課題：①市内の就労支援事業所等の周知、②市内の就労支援事業者の把握、③市内の就労系事業所の学びや意見交換の場が身近にない。
児童支援部会(児童に関する課題の協議)議）
課題：①医療的ケア児の支援の充実、②外国籍の方は言葉や文化の違いから支援が難しい、③発達障がいのかる子

の支援の充実
目的：①医療系ケア児の支援の充実、②外国籍の本人、親への円滑な支援、③発達障害のある方の支援の充実
協議結果（取組）：①－１医療的ケア児支援ガイドブックの更新・発行、①－2 医療的ケア児に関するアンケートを基にした意見交換、②外国籍の本人、親等に対するコミュニケーションツールに関しての意見交換、③ペアレントトレーニングおよびペアレントプログラムについての意見交換

ピアカウンセリング（障害者相談員等による面接）

同じ障害のある方同士の相談が必要と思われる相談もあったが、同じ病気・障がいというくくりでの対応が難しかったため、障害者相談員等の面接実績はなかった。

地域の相談支援体制の強化の取り組み

市内の相談支援事業者に対する専門的な指導、助言：支援困難事例など随時助言（44 件）を行い、必要に応じて関係者を招集した担当者会議に出席して検討に加わった。
市内の相談支援事業者の人材育成の支援および地域の相談機関との連携強化の取り組み
・足利市地域自立支援協議会事例検討部会：4 月、6 月、8 月、10 月、12 月、2 月にグループスーパービジョンの手法を用いた事例検討を 6 回開催し、14 事業所及び機関から延べ 96 名の参加があった。人材育成の一環で、基本的に事例提供者、司会、板書は基幹相談支援センター職員以外で実施した。相談支援専門員が支援で困っていることに焦点を当て、改めて事例の見立てをし、手立てを検討することで、事例提供者の支援の気づきを促した。また、参加者全員から検討で得られた気づきを報告してもらい、全体で共有した。各自の担当するケース対応などに応用できるなどの気づきが得られた。
・安足地区障害者相談支援事業者等連絡会：佐野の基幹相談支援センター（相談支援センターみどり、相談支援事業所さの）と共同で 2 回開催した。第 1 回は、令和 7 年 8 月 26 日に安足健康福祉センター大会議室にて、「触法障害者の支援（医療観察法制度対象者の支援）について」をテーマに実際の事例を含めた講義と GW で支援の理解を深めた。両市の相談支援専門員を中心に 43 名の参加があった。第 2 回は、令和 8 年 2 月 24 日に安足健康福祉センター大会議室にて、「過剰なこだわりを抱えている方への対応」をテーマに発達障害のある方の特徴を踏まえた講義と GW にて支援の理解を深めた。両市の相談支援専門員中心に 46 名の参加があった。
・幅広い対象者からの相談：身体、知的、精神障害以外にも難病や発達障害、高次脳機能障害、介護保険の特定疾病、発達障害か知的障害の可能性のある方の本人およびその家族、関係者からの相談が寄せられた。また、8050 問題に関連した相談も増え、親亡き後の生活や親が亡くなった後の生活についての相談に対応した。認知症の親と障害のある子のケースによっては重層的支援体制整備事業にて他機関と連携して対応した。
・特別支援学校の進路相談会への出席：足利中央特別支援学校および足利特別支援学校、県立聾学校の進路相談会に市の担当と出席し、本人、親と担任、進路指導主事と卒業後の進路について検討を行った。
・市役所窓口による相談業務 7 件
毎週月曜日（祝祭日を除く）の午前 9:30～12:00 まで市・障がい福祉課に相談支援相談支援員が出向き相談対応を行った。窓口に来所された障がいのある方への面接対応では、支援担当の職員同席で面接したり、ケースによっては相談員単独で面接して相談に応じたりした。また、市・障がい福祉課にあった電話相談についても、支援担当の職員が初回受け付けを行い、その後電話を代わり対応をした.

総合的・専門的な相談支援の実施について

・身体、知的、精神、発達、高次脳、難病等、障がいの種別も多岐に渡り、重複している方からの相談も寄せられたが、特に精神障がい（35%）、知的障がい（31%）のある方の相談が多かった。相談の受付経路は、全体の 43%が本人、次いで事業者・施設が 22%、家族・親戚が 16%、市区町が 6%であった。相談内容としては、触法障害者の GH への入居した事例、金銭、対人トラブルを抱えた事例、強制退去でアパートから GH へ入居をした事例、障害年金申請の相談の事例、障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行に関する事例、引きこもっている方の今後の生

活に関する事例、など多岐にわたる相談が本人、家族、親族、関係機関から寄せられた。
・重層的支援体制整備事業が令和 7 度から開始され、引きこもりの課題や 8050 問題に関連した相談なども増えた。複数の課題を抱えた相談件数も 214 件（延べ）あり、支援機関等のお互いの役割を理解しつつ、連携していくことの重要性を改めて痛感した。また、医療観察法の対象事例に関しては、保護観察所や関係する機関と連携する中で、受け入れ先の障害者施設の理解が改めて重要であることを認識しつつ支援をした。いずれの相談も、インテーク面接を経てアセスメントを行い、ニーズを明らかにしつつ、関係機関・団体等と連携して支援した。
・療育手帳の出張判定において、必要に応じて専門的な見地から助言を行った。
・医療的ケア児等コーディネーターが大学病院、総合病院の退院後に向けたカンファレンスに出席し、地域の医療、看護、福祉の関係者とともに退院後の支援の確認および検討を行った。退院後に自宅に定期訪問して、家族では調べきれない情報について確認して提供した。また、市の保健師とも緊密に連携を図り、退院後の自宅での生活について課題を共有して、可能な支援について一緒に検討した。
・療育手帳の出張判定において、必要に応じて専門的な見地から助言を行った。
・医療的ケア児等コーディネーターが大学病院、総合病院の退院後に向けたカンファレンスに出席し、地域の医療、看護、福祉の関係者とともに退院後の支援の確認および検討を行った。退院後に自宅に定期訪問して、家族では調べきれない情報について確認して提供した。

その他（関係機関との連携状況等を記載）

・令和 7 年 8 月 27 日（金）に足利市地域包括支援センター三重・山前主催の地区の介護支援専門員対象の勉強会にて、「障害福祉サービスについて」をテーマに基幹の相談支援専門員が説明を行い、介護保険サービスとの違いなどを説明し円滑な連携を図れるようにした。介護支援専門員を中心に 21 名の参加があった。
・令和 7 年 7 月 28 日（水）に令和 7 年度足利市障害児・発達障害児療育推進連携協議会に委員として出席し、各施設の療育等の状況および市の取り組みについて共有を図った。
・足利市健康福祉部生活保護担当が主催する「生活困窮者自立相談支援事業支援調整会議」（対面および書面）に出席し、障がい者の対象者に対して意見交換して連携を図った。
・令和 8 年 3 月 12 日（木）に地域包括支援センター山辺・矢場川地区の地域ケア会議に出席し、地域の課題の共有を図り関係機関の役割を確認した。
・令和 8 年 3 月 18 日（水）に認知症支援推進員主催の若年性認知症の研修会に参加し、関係機関と支援と連携について紹介関係の参加者とともに学びを深めた。
・安足地区精神障害にも対応した地域包括システム構築推進会議の地域移行と普及啓発の部会に相談支援専門員がそれぞれ所属し、精神障害者にも対応した地域包括システムに対する意見を述べた。
・就学前の保育園、幼稚園の特別支援コーディネーターワーキングに助言者として協力した。
・足利市心身障害者・発達障害児療育推進連携協議会に委員として出席し、障害児の支援について協議を行った。
・栃木県高次脳機能障害者支援連携協議会に出席し、高次脳機能障害のある方の支援の課題について協議した。
・地域生活支援拠点整備事業（あっしーネット事業）では、30 代の知的障害のある女性が、親の緊急入院のため、7 日間のあっしーネットの緊急短期入所を利用、その後、GH の利用を経て母親が退院したため自宅に戻った。また、20 代の知的障害のある男性の登録者が、緊急時に急な利用が難しいということで、体験利用を午後 4 時～午後 8 時までの 4 時間程度行い、緊急時の利用について、本人・家族と施設側が利用に際しての留意点など確認できた。宿泊については、短期入所サービスの支給決定を受けてから体験することになった。令和 8 年 3 月時点のあっしーネット登録者は 125 名となっている。

３． 部会報告

（1）就労部会

・クリーニング事業、食品事業と連携した取り組みを行いました。

・事業所毎に光熱費（電気・ガス）の削減運動（休憩時間等には消灯する。ガス使用時間を短く効率よく使用するなど）に取り組みました。

・就労全体研修会での各事業所から発表を通し、職員の主体性を育みました。

各部等	日付	内容等	人数
サビ管委員会	R7.4.3	状況報告、就労事業所の現在、利用者受け入れについて等	8名
	R7.5.14	状況報告、課題と対策、部会専門部の取り組み状況の報告	9名
	R7.6.11	状況報告、課題と対策、専門部会の取り組み報告	8名
	R7.7.7	状況報告、課題と対策、専門部会の取り組み報告等	8名
	R7.8.6	状況報告、課題と対策、専門部会の取り組み報告等	9名
	R7.9.10	状況報告、課題と対策、専門部会（報酬改定説明）報告等	9名
	R7.10.14	状況報告、研修報告、取引単価見直し、三桝屋について	10名
	R7.11.12	状況報告、誤嚥対策の確認、施設外就労の状況確認等	9名
	R7.12.5	状況報告、昼食時の誤嚥対策指針、共働舎棟について等	9名
	R8.1.19	状況報告、課題と対策、専門部会（事例発表の件）	7名
	R8.2.26	各事業所の状況報告、課題と対策、専門部会から報告	10名
	R8.3.25	来年度の体制について、理念浸透の取り組みについて等	10名
生産工程管理/評価部会	R7.5.12	部員紹介・活動内容について	7名
	R7.7.11	全体会発表に向けた各事業所の取り組み内容共有	7名
	R8.1.21	全体会での発表に向けた内容､進捗の確認(順番､役割など)	7名
レクリエーション部	R7.5.12	年間スケジュール作成、日帰りレクリエーションについて	6名
	R7.7.22	職員レクリエーションについて、職員心得推進部について	7名
	R7.9.4	職員レクリエーションについて、職員心得推進部について	7名
	R8.2.19	来年度のレクリエーション、GOTO 三桝屋について等	6名
虐待防止・身体拘束部	R7.5.19	自己紹介、今年度の研修について、日程内容確認	5名
	R7.6.24	伝達研修、研修についての内容や日程について	5名
新規開拓/研修部	R7.5.12	委員会の趣旨と取り組みについて	5名
工事・営繕部	随時	営繕部として依頼に応じて対応	2名

【全体研修会】

日付	区分	内容等	人数
R8.1.28	研修会	虐待防止、身体拘束化適正化研修について	27名
R8.2.24	研修会	事例発表会	34名

【職員交流会】

日付	区分	内容等	人数
R7.10.5	部会レク	渋川市方面（うどん打ち体験ウォークラリー等）	35名

（2）介護部会

介護部会では令和7年度に発生した誤嚥事故を受け、再発防止を重点課題として取り組みました。各事業所および各委員会において、環境マニュアルの整備、誤嚥時対応器具の確認、パタカラ体操の導入、嚥下評価等を実施しました。これらの取り組みを月1回報告し、全体で共有化を図りました。

各部等	日付	内容等	人数
ユニット会議	R7.4.10	各事業所、各課の報告、エリア送迎について等	8名
	R7.5.9	各事業所、各課の報告、重度支援加算について等	10名
	R7.6.11	各事業所、各課の報告、誤嚥事故について等	11名
	R7.7.11	各事業所、各課の報告、誤嚥再発予防について等	9名
	R7.8.12	各事業所の報告、誤嚥再発予防の取り組みについて等	10名
	R7.9.12	各事業所、各課の報告、会議のメンバー変更について等	9名
	R7.10.7	各事業所の報告、ユニフォーム着用ルールについて等	12名
	R7.11.11	各事業所の報告、Viewing展2026について等	12名
	R7.12.9	各事業所、各課の報告、部会交流会について等	10名
	R8.1.11	各事業所、各課の報告、重度支援加算算定状況について等	10名
	R8.2.10	各事業所、各課の報告、理念浸透事業について等	9名
	R8.3.20	各事業所の報告、来年度の委員会メンバーについて等	11名
介護技術指導課		パタカラ体操の実施や食事介助マニュアルを改正。全事業所で実施できるよう伝達を実施。	
芸術活動推進課		Viewing展2026、1月に「創作コンクール」を開催 その他月に1回の会議と、作品の展示活動等を実施。	
研修課		全体研修会を実施	
ヒヤリハット・事故検証課		各事業所の事故報告書、ヒヤリハットを集めて、情報を共有する。誤嚥の再発予防の協議を中心に実施。	
リハテック課（リハビリ・ICT技術）		介護部会合同レクを開催。（12/3） 陽光園はインカム、服薬管理システムを導入。 カレンフィールドでは、記録ソフトを導入予定。	

【全体研修会】

日付	区分	内容等	人数
R7.7.23、8.5	研修会	レクリエーションについて	65名
R7.10.28、11.6、11.21	研修会	心肺蘇生法、救急救命講習について	108名
R7.3.11、3.19	研修会	虐待防止、身体拘束化適正化研修について	78名

【職員交流会】

日付	区分	内容等	人数
R7.12.7、12.14	部会レク	＊バスレク：高崎市方面（だるまの絵付け等）	53名

（3）居住部会

令和 7 年度はサビ管グループにて、グループホーム（以下 GH）の方向性や法人内の GH 全体に関わる課題等について、協議・検討、レク・研修グループは以下の会議、活動を行いました。

区分	日付	内容	人数
サビ管グループ	R7.4.8	状況報告と課題と対策、地域連携推進会議について	11 名
サビ管グループ	R7.5.13	状況報告と課題と対策、重度加算についてなど	9 名
サビ管グループ	R7.6.10	状況報告と課題と対策、朝夕食の提供についてなど	9 名
サビ管グループ	R7.9.9	状況報告と課題と対策、新規 GH についてなど	9 名
サビ管グループ	R7.10.14	状況報告と課題と対策、看護師との連携についてなど	9 名
サビ管グループ	R7.12.9	状況報告と課題と対策、理念浸透事業についてなど	9 名
サビ管グループ	R8.1.13	状況報告と課題と対策、虐待防止研修（事業所）など	9 名
サビ管グループ	R8.2.11	状況報告と課題と対策、来年度の部会体制など	9 名
サビ管グループ	R8.3.20	状況報告と課題と対策、誤薬時の対応についてなど	9 名
レク・研修	R7.10.7	部会レク打合せ	5 名
レク・研修	R7.12.23	虐待防止研修、身体拘束適正化研修についてなど	6 名

【全体レクリエーション】

日付	区分	内容等
R7.5.18	全体レク	キッチンカーレク（館林）

【全体研修会】

日付	区分	内容等	人数
R8.1.8、1.12	全体研修	虐待防止研修、身体拘束適正化研修	33 名

【職員交流会】

日付	区分	内容等	人数
R7.11.10、12.7	部会レク	大谷資料館見学ツアー	27 名

（4）地域支援部会

構成員は、主に相談支援専門員で組織しその資格を活かし、法人の抱える課題に取り組みました。具体的には、支援困難ケースの出前（アイヴィレッジ、共働舎・アイタウン）での検討会を開催して、その後のフォローアップをしました。

また、2週間に1回行われる部会では、横断的な報告を行い、全体で法人の支援の現状と課題を共有しました。その他の取組として、虐待防止研修を開催し、相談支援専門員の視点から虐待防止の対応について意見交換をしました。

日付	区分	内容	人数
R7.4.14	研修	グループスーパービジョンによる事例検討（出前研修） アイヴィレッジの利用者様への対応について検討	18 名
R7.7.29	研修	グループスーパービジョンによる事例検討（出前研修） 共働舎とアイタウンの利用者様への対応について検討。	9 名
R8.1.15	研修	バイスティックの 7 原則（対人援助の原則）に照らし合わせた支援について	7 名
R8.2.19	研修	地域支援部会 虐待防止研修	7 名

【職員交流会】

日付	区分	内容等	人数
R7.9.28	部会レク	伊香保温泉の散策、だるまの絵付け体験等	7 名

４．委員会報告

（1）人材育成委員会

職員の支援力向上、組織人として求められる知識・スキルの習得を目的に活動しています。
初級オリエンテーションの開催のほか、階層別研修の見直しや人財育成計画の策定等これからの法人全体での人財育成の基盤づくりに取り組みました。

【委員会開催】

日付	議題等	参加委員
R7.5.10	初級オリエンテーション【前期】について	6名
R7.9.4	今後の研修予定について	6名
R7.11.17	初級オリエンテーション【後期】について	6名

【研修開催】

日付	研修内容	受講者数
R7.6.5 6.12	令和7年度　初級オリエンテーション【前期】 理事長講話、常務から事業所説明、事業所見学、グループワーク 各種講義：「障害について」「リフレーミング」等	11名
R7.12.4 12.11	令和7年度　初級オリエンテーション【後期】 会長講話、理事長から法人理念説明、事業所見学、グループワーク 各種講義：「障害について」「リフレーミング」等	9名

【その他の取り組み】

取り組み内容	
理念浸透ワーキング	新たな理念の浸透に向けた取り組みの検討、実施、進捗確認等 ・R7.6　理念の説明、スタイルブック配布（正職） ・R7.10～R8.2 サビ管、正職を対象とした、基本方針の理解、行動指針の実践に向けた取り組み
人財育成ワーキング	階層別研修の見直しを含めた、人財育成計画の策定や研修の開催等、これからの人財育成の課題整理、取り組み検討 ・サビ管向け人財育成研修の開催 R7.8.25　理念の浸透について R7.9.25　自分・施設の在り方、仕事の神髄を考える R7.10.23　職員の育成、自発とは R7.11.27　研修の振り返り、リーダーの真の価値 職員の視座の高め方

※上記ワーキングは、法人内から選任されたメンバーによって組織され、人材育成委員会からは3名が参画。
外部コンサルとの定期ミーティングにより研修内容や取り組み進捗の確認を実施。

※令和8年度からは、人財育成委員会と上記ワーキングを統合し、人財育成統括会議として法人の人財育成を推進していく。

（2）広報委員会

広報委員会では内報部、外報部に分かれ、それぞれの役割に応じた活動を実施しました。
外報部では学校営業や佐野短期大学等における求職者向け広報活動を展開しました。また、内報部では新入職員の取材を積極的に実施し、広報誌「HAPILA」の作成など、法人内外への情報発信の充実に努めました。その他にも、理事長の就任式・退任式への対応を行いました。

日付	区分	内容等	人数
R7.4.11	広報委員会	・第36号広報トピックスについて ・メタバース研修について ・令和6年度SNS大賞について	6名
R7.5.13	広報委員会	・第37号広報トピックスについて ・各拠点取材について ・SNS委員会開催について	6名
R7.6.16	広報委員会	・第38号広報トピックスについて ・SNS担当者会議開催について ・高校、短大への営業活動について	6名
R7.7.15	広報委員会	・第39号広報トピックスについて ・広報誌、アップデートについて	6名
R7.8.8	広報委員会	・第40号広報トピックスについて ・ホームページについて ・学校訪問営業について	5名
R7.9.5	広報委員会	・第41号広報トピックスについて ・川俣理事長就任式退任式、写真・取材文書について ・広報誌作成においてのアンケートについて	6名
R7.10.11	広報委員会	・第42号広報トピックスについて ・HAPILAについて ・広報誌秋号、アップデートについて	4名
R7.11.14	広報委員会	・第43号広報トピックスについて ・新入紹介インタビューついて	6名
R7.12.12	広報委員会	・第44号広報トピックスについて ・公式ライン運用について ・HAPILA完成版について	6名
R8.1.5	広報委員会	・第45号広報トピックスについて ・一歩・三桝屋公式ライン運用について ・地域支援部会からの依頼について	6名
R8.2.13	広報委員会	・第46号広報トピックスについて ・地域支援部会からの要請。広報誌のテンプレートについて	6名
R8.3.7	広報委員会	・第47号広報トピックスについて ・マイナビサイトの運用について	6名

（3）サービス向上委員会

第三者や外部の方の視点に立ち、法人全体のサービスを高めていくことを目的として活動を行っております。

令和 7 年度は館林地区の居住サービス部門と共同でキッチンカーレクを開催し、休日の余暇として利用者様にキッチンカーでの食事提供を行うと共に、地域の方々への施設紹介等を実施し交流を行いました。

また、特別支援学校向の生徒様、保護者様向けの見学会を実施し、法人の事業内容等の説明、周知を行いました。見学会等に参加された方々とのやり取りを通し、個別での進路相談や見学対応などを実施し、長期的な関係性を作る活動を行っております。

【委員会及び取り組み内容等について】

日付	区分	活動等	人数
R7.4.15	定期委員会		5 名
R7.5.1	定期委員会		5 名
R7.5.18		アイヴィレッジ　キッチンカーレク	4 名
R7.6.17	定期委員会		6 名
R7.7.25	定期委員会		3 名
R7.8.13	定期委員会		5 名
R7.9.19	定期委員会		4 名
R7.10.1	定期委員会		5 名
R7.11.6	定期委員会		5 名
R7.11.22		特別支援学校保護者向け見学会	3 名
R7.1.20	定期委員会		4 名
R7.3.19	定期委員会		3 名

５．評議員会の開催状況

	日程	内容
1	R7.6.20	報告第１号　業務運営状況について 議案第１号　令和６年度事業報告について 議案第２号　令和６年度決算報告について 議案第３号　役員の選任について
2	R8.3.26	報告第１号　業務運営状況について 議案第１号　令和７年度補正予算（第２次）について 議案第２号　令和８年度事業計画について 議案第３号　令和８年度予算について 議案第４号　役員及び評議員の報酬等並びに費用弁償に関する規程の改定について

６．理事会の開催状況

	日程	議案内容
1	R7.4.25	報告第１号　共同募金配分申請について 議案第１号　評議員候補者（案）の選定について 議案第２号　評議員選任・解任委員会の開催について
2	R7.6.4	報告第１号　理事長の職務執行状況について 報告第２号　社会福祉充実残額について 議案第１号　令和６年度事業報告について 議案第２号　令和６年度決算報告について 議案第３号　役員の推薦について 議案第４号　経理規程の変更について 議案第５号　令和７年度定時評議員会の開催について
3	R7.6.20	議案第１号　理事長の選定について 議案第２号　管理者の選定について
4	R7.9.29	報告第１号　理事長の職務執行状況について 報告第２号　運営指導結果等について 議案第１号　職員給与規程の改正について 議案第２号　育児・介護休業等に関する規程の改正について 議案第３号　共同生活援助の開設について 議案第４号　管理者の選定について 議案第５号　借入の実施について 議案第６号　土地の取得について
5	R8.1.14	報告第１号　理事長の職務執行状況について 議案第１号　令和７年度補正予算（第１次）について 議案第２号　育児・介護休業等に関する規程の改正について 議案第３号　事業所の定員変更について 議案第４号　土地の購入（山川町）について

		議案第 5 号　土地の購入（上羽田町等）について 議案第 6 号　令和 7 年度臨時評議員会の開催について
6	R8.3.26	報告第 1 号　理事長の職務執行状況について 議案第 1 号　令和 7 年度補正予算（第 2 次）について 議案第 2 号　令和 8 年度事業計画について 議案第 3 号　令和 8 年度予算について 議案第 4 号　職員就業規則の改定について 議案第 5 号　経理規程の改定について 議案第 6 号　給与規程の改定について 議案第 7 号　役員及び評議員の報酬等並びに費用弁償に関する規程の改定について 議案第 8 号　事業所の定員変更について 議案第 9 号　管理者の選定について

７． 外部研修等実施状況

	日付	研修名（内容等）	主催者、会場等	参加者	所属
1	7.5.13	cotta ビジネスフェア 2025	株式会社 cotta	恩田　真由美	一歩
				松﨑　友紀	
2	7.5.21-22	栃木県社会就労センター協議会総会・研修会	栃木県社会就労センター協議会	川俣　聡司	愛光園
3	7.5.22	安全運転管理者講習	群馬県安全運転管理協会	関　晋二	ラクーン
				渡辺　哲也	カレンフィールド
4	7.5.23	全国社会就労センター協議会総会	全国社会就労センター協議会	川俣　聡司	愛光園
5	7.6.6	障害支援区分認定調査員研修	栃木県市町審査会	三輪　恵理佳	愛光園
				髙木　祐太	陽光園
				東條　勝	ホームかがやき
6	7.6.19	就労選択支援事業研修会	群馬県	森山　晴香	ひかり
7	7.6.20	関東社会就労センター協議会第 1 回協議員会	関東社会就労センター協議会	川俣　聡司	愛光園
8	7.6.20	施設長育成 college	S.Y ワークス	久保　全功	愛光園
9	7.6.24	身体拘束適正化研修	館林市三野谷公民館	中村　弘美	ホームひだまり
10	7.6.25	令和7年度栃木県医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修会	栃木県医療的ケア児等支援センター	小野　広久	相談支援
11	7.6.27	テールゲートリフター特別教育	わたらせ技能講習センター	北澤　恒夫	足利愛光園
				田中　克美	足利愛光園
12	7.7.8	安全運転管理者講習	栃木県公安委員会	大越　雅明	ホームひだまり
				永倉　徹	足利愛光園
13	7.7.8	栃木県相談支援従事者現任研修	栃木県、栃木県自立支援協議会	原　健一	共生
14	7.7.10-11	全国知的障害関係施設長等会議	日本知的障害者福祉協会	川俣　弘美	彩光園
15	7.7.11-12	第 15 回清水基金国内研修	清水基金	森山　僚	カレンホーム
16	7.7.16-18	全国社会就労センター協議会総合研究大会	全国社会就労センター協議会	川俣　聡司	愛光園
				齋藤　良美	足利愛光園
				天貝　奈萌	共働舎

				佐々木　健一	陽光園
				羽深　智敬	三桝屋総本店
17	7.7.21	テールゲートリフター特別教育	わたらせ技能講習センター	山中　一訓	彩光園
18	7.7.22	強度行動障害支援者養成研修	東北福祉カレッジ	小林　里香	ホームほのか
19	7.7.29	強度行動障害支援者養成研修	東北福祉カレッジ	中村　弘美	ホームひだまり
20	7.8.5	強度行動障害支援者養成研修	東北福祉カレッジ	押山　大徳	ホームひだまり
21	7.8.7	CARE　TEX 東京 25　展示視察	ブティックス（株）	手嶋　英輔	カレンフィールド
				栗原　将人	陽光園
22	7.8.9	日本ケアレク研修会	日本通所ケア研究会	手嶋　英輔	カレンフィールド
				青木　祐太	彩光園
23	7.8.12	強度行動障害支援者養成研修	東北福祉カレッジ	加藤　弘之	ホームひだまり
24	7.8.19	強度行動障害支援者養成研修	東北福祉カレッジ	早川　かおり	ホームひだまり
25	7.8.20-22	リーダー養成ゼミナール	全国社会就労センター協議会	天貝　奈萌	共働舎
26	7.8.27-28	サービス管理責任者等実践研修	特非）栃木県障害施設・事業協会	岡嶋　梨加	彩光園
27	7.8.29	施設における感染症対策	館林保健福祉事務所	竹田　彩乃	カレンフィールド
				菅井　つかさ	
28	7.9.2-3	令和7年度日本セルプセンター クリーニング部会研修会	認定特非）日本セルプセンター	永倉　徹	足利愛光園
				山中　一訓	彩光園
29	7.9.3-5	令和7年度障害者虐待防止 権利擁護指導者養成研修	厚生労働省	長　秀紀	相談支援
30	7.9.5	令和7年度口腔ケア研修	栃木県社会福祉協議会	野口　依里	カレンフィールド
31	7.9.9	強度行動障害支援者養成研修	東北福祉カレッジ	長谷川　奈菜	彩光園
32	7.9.16	強度行動障害支援者養成研修	東北福祉カレッジ	岡嶋　梨加	彩光園
				石井　聡	彩光園
33	7.9.17-18	サービス管理責任者等基礎研修	特非）栃木県障害施設・事業協会	加藤　弘之	ホームひだまり
34	7.9.20	ひきこもり講演会 「対話を通した地域づくり」	鹿沼市社会福祉協議会	川俣　弘美	彩光園
35	7.9.21	日本セルプセンター クリーニング部会	日本セルプセンター	川俣　聡司	愛光園

36	7.9.23	強度行動障害支援者養成研修	東北福祉カレッジ	青木　祐太	彩光園
37	7.9.24	身体拘束適正化研修	社会福祉法人館邑会	野口　依里 菅井　つかさ	カレンフィールド
38	7.9.30	強度行動障害支援者養成研修	東北福祉カレッジ	坂本　美幸	彩光園
39	7.9.30	令和 7 年度感染症研修会	栃木県安足健康福祉センター	萩原　結華	彩光園
40	7.10.4	関東社会就労センター協議会 研究大会	関東社会就労センター協議会	川俣　聡司	愛光園
41	7.10.6	栃木県社会就労センター協議会 第 2 回研修会	栃木県社会就労センター協議会	佐々木　瑠実	彩光園
42	7.10.10	安全運転管理者講習	一般社団法人栃木県安全運転 管理者協議会	栗原　達也	一歩
43	7.10.22	令和 7 年度栃木県医療的ケア児に 関する災害対策研修		小野　広久	相談支援
44	7.10.23	音羽シェフ監修のパウンドケーキを つくろう	とちぎセルプセンター	青木　香奈子	一歩
45	7.10.24	介護にまつわるセミナー	積水ハウス（株）	川俣　恵一	愛光園
46	7.10.29	障害者雇用及び高齢者雇用助成金 説明会	独立行政法人高齢・障害・求職者 雇用支援機構	黒須　翔太	共働舎
47	7.11.7	介護にまつわるセミナー	積水ハウス（株）	川俣　恵一	愛光園
48	7.11.12-13	サービス管理責任者等基礎研修	（特非）栃木県障害施設・事業協会	新保　成美	なないろ
49	7.11.15	デリカート 2025 展	群馬県障害者幻術文化活動 支援センターこ・ふぁん	川俣　恵一	愛光園
50	7.11.21	R7 年度県南・安足ブロック研修 「AA とアルコール依存の理解」	とちぎ障がい者相談支援専門員 協会	小野　広久	相談支援
51	7.11.24	テールゲートリフター特別教育	わたらせ技能講習センター	安藤　庄一	彩光園
52	7.11.25	セルプセンター研修会	栃木県社会就労センター事業振興 委員会	家住　涼介	愛光園
53	7.11.27	音羽シェフ監修のパウンドケーキを つくろう・商品化テスト	とちぎセルプセンター	青木　香奈子	一歩
54	7.12.1	栃木県社会就労センター協議会 研修会	栃木県社会就労センター協議会	川俣　聡司	愛光園
55	7.12.2	R7 年度福祉サービス苦情解決 研修会	栃木県運営適正化委員会	萩原　結華	彩光園
56	7.12.9	R7 年度第栃木県災害福祉 チームスキルアップ研修会	小山市まちなか交流センター	小野　広久	相談支援

57	7.12.3	地域療育支援事業研修会	栃木県リハビリテーションセンター、 こども発達支援センター	相田　直子	なないろ
58	7.12.13	全国社会就労センター協議会 総合研究大会	全国社会就労センター協議会	川俣　聡司	愛光園
59	7.12.13	足利市社会福祉施設代表者協議会 役員会・懇談会	足利市社会福祉施設代表者協議会	川俣　聡司	愛光園
60	7.12.15	ひきこもり支援の現状と課題 について	栃木県子ども若者・ひきこもり総合 相談センターポラリスとちぎ	川俣　弘美	彩光園
61	7.12.22	甲種防火管理者新規講習	日本防火・防災協会	高橋　啓介	カレンホーム
62	8.1.7	サービス管理責任者等基礎研修	特非）栃木県障害施設・事業協会	小池　大地	カレンホーム
63	8.1.13	メタバース等の ICT を活用した 福祉サービスの視察研修会	Good　Job！センター香芝、 社会福祉法人ぽろぽの	川俣　聡司	愛光園
64	8.1.19	安全運転管理者法定講習受講	人材派遣ワイズコーポレーション境 総合文化センター	羽深　智敬	三桝屋總本店
65	8.1.20	サービス管理責任者等更新研修	特非）栃木県障害施設・事業協会	佐藤　圭	カレンフィールド
66	8.1.22-23	R7 年度日本セルプ士会 視察研修会@徳島	日本セルプ士会	川俣　聡司	愛光園
67	8.1.25	足利社会福祉施設代表者協議会	ココファームワイナリーカフェ	佐々木　健一	愛光園
68	8.1.26	施設長育成 college	S.Y ワークス本社	久保　全功	愛光園
69	8.1.28-29	サービス管理責任者等実践研修	特非）栃木県障害施設・事業協会	吉松　衿菜	陽光園
70	8.1.30	第 11 回障害者芸術展ビューイング 展 2026	もうひとつの美術館	川俣　惠一	愛光園
71	8.1.30	サービス管理責任者等実践研修	特非）栃木県障害施設・事業協会	武石　久美	かがやき
72	8.1.31	第 11 回障害者芸術展ビューイング 展 2026	もうひとつの美術館	茂木　桂子	フルーエ
73	8.2.2	R7 年度第 2 回栃木県基幹相談支 援センタースキルアップ研修		小野　広久	相談支援
				長　秀紀	相談支援
74	8.2.4-5	サービス管理責任者等基礎研修	特非）栃木県障害施設・事業協会	野口　依里	カレンフィールド
				勅使河原　彩	共働舎
				関口　裕子	陽光園
75	8.2.5	第 11 回障害者芸術展ビューイング 展 2026 受賞者(利用者 3 人)を引率し見学	もうひとつの美術館	川俣　弘美	彩光園

76	8.2.12	障害のある人の表現と著作権	群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふぁん	福井　規雄	彩光園
77	8.2.13	メタバース活用研修会	FUKUSIX	川俣　聡司	愛光園
78	8.2.19	足利市社会福祉施設代表者協議会「市長との懇談会及び懇親会」	足利市社会福祉施設代表者協議会	野本　嘉之	一歩
				川俣　聡司	愛光園
79	8.2.26-27	全国社会就労センター協議会センター長研修会	全国社会就労センター協議会	川俣　聡司	愛光園
80	8.3.3	令和 7 年度第 1 回安足地区知的障害施設長会議	安足地区知的障害者施設長会	川俣　聡司	愛光園
				佐々木　健一	足利愛光園
				川俣　弘美	彩光園
81	8.3.11-13	社会福祉法人光明会交換研修		佐々木　健一	足利愛光園
82	8.3.15	テールゲートリフター特別教育	わたらせ技能講習センター	會田　智典	足利愛光園
83	8.3.23-24	リーダー養成ゼミナール修了式千葉県視察	全国社会就労センター協議会	天貝　奈萌	共働舎
84	8.3.24	リーダー養成ゼミナール修了生フォローアップ研修会	日本セルプ士会	渡辺　幸恵	彩光園
				川俣　聡司	愛光園
合計				108 名	

８．事業別職員数（令和８年３月 31 日）

			男				女				合計				平均年齢	平均在籍期間
			正職員	フルパート	非常勤	合計	正職員	フルパート	非常勤	合計	正職員	フルパート	非常勤	合計		
山川	足利愛光園	生活介護	1	0	1	2	2	0	2	4	3	0	3	6	46.3	7.61
		B	4	3	1	8	0	1	2	3	4	4	3	11	51.1	4.21
	あすか		2	0	1	3	3	2	5	10	5	2	6	13	55.5	8.79
	その他		0	1	1	2	0	2	0	2	0	3	1	4	60.4	18.00
	小計		7	4	4	15	5	5	9	19	12	9	13	34		
あづま	彩光園	生活介護	2	0	1	3	4	1	4	9	6	1	5	12	53.7	10.14
		彩	3	0	9	12	2	0	6	8	5	0	15	20	58.7	6.18
		B	1	1	2	4	1	0	1	2	2	1	3	6	57.3	5.22
	かがやき		1	0	2	3	3	4	7	14	4	4	9	17	61.5	4.22
	なないろ		1	0	2	3	2	2	6	10	3	2	8	13	58.0	5.66
	その他		0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	70.2	23.94
	小計		8	1	17	26	12	7	24	43	20	8	41	69		
松原	セレッソ館		1	1	1	3	2	3	5	10	3	4	6	13	61.4	5.10
	ラクーン		4	1	2	7	4	1	5	10	8	2	7	17	51.4	4.38
	小計		5	2	3	10	6	4	10	20	11	6	13	30		
六郷	カレンF	B	1	0	1	2	0	1	2	3	1	1	3	5	53.6	2.93
		生活介護	6	1	14	21	8	2	18	28	14	3	32	49	49.2	3.19
	カレンホーム		3	1	3	7	1	3	11	15	4	4	14	22	53.2	2.89
	ひかり		0	0	0	0	1	0	1	2	1	0	1	2	36.5	5.80
	みやび		1	0	1	2	1	0	3	4	2	0	4	6	65.1	4.11
	生活介護三桝屋		1	0	0	1	0	1	4	5	1	1	4	6	49.4	2.58
	三桝屋		3	1	4	8	2	2	2	6	5	3	6	14	44.4	3.85
	小計		15	3	23	41	13	9	41	63	28	12	64	104		
アイタウン	ほのか		0	0	1	1	4	2	10	16	4	2	11	17	60.7	7.20
	ひだまり		3	0	1	4	2	3	12	17	5	3	13	21	67.2	8.81
小計			3	0	2	5	6	5	22	33	9	5	24	38		
稲岡	工場	愛光園	8	0	1	9	3	0	6	9	11	0	7	18	50.5	10.41
		共働舎	0	0	3	3	3	1	7	11	3	1	10	14	53.0	6.17
		その他	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	34.3	1.16
		小計	8	1	4	13	6	1	13	20	14	2	17	33		
	介護	陽光園 生活介護	8	0	7	15	17	2	7	26	25	2	14	41	47.8	7.34
		陽光園 入所	0	0	2	2	1	1	0	2	1	1	2	4	64.0	11.56
		小計	8	0	9	17	18	3	7	28	26	3	16	45		
	ホームゆい		4	1	1	6	1	3	6	10	5	4	7	16	52.3	3.50
	小計		4	1	1	6	1	3	6	10	5	4	7	16		
大久保		一歩	2	0	3	5	3	0	5	8	5	0	8	13	57.2	6.39
小計			2	0	3	5	3	0	5	8	5	0	8	13		
猿田		フルーエ	4	0	3	7	6	1	7	14	10	1	10	21	50.1	4.82
		共生	1	0	0	1	2	0	0	2	3	0	0	3	48.5	18.25
小計			5	0	3	8	8	1	7	16	13	1	10	24		
地域		相談支援	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	2	53.0	27.38
小計			2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	2		
合計			67	12	69	148	78	38	144	260	145	50	213	408	54.1	7.80

９．補助事業の活用状況

令和 7 年度補助事業の活用状況

補助団体	事業所（施設）	事業名または内容	事業予算・補助額	完了日
社会福祉法人栃木県共同募金会	彩光園	令和 7 年度共同募金配分（ハイエース）	総額： 4,200,000 円 補助： 1,500,000 円	令和 8 年 10 月（納車予定）
JAS	ホームゆい	グループホーム新築工事	補助： 7,073,000 円	令和 7 年 11 月
一般財団法人エルピーガス振興センター	ホームゆい	グループホーム新築工事	補助： 4,635,000 円	令和 7 年 11 月
JAS	相談支援事務所棟	相談支援事務所棟建築工事	補助： 2,912,000 円	令和 8 年 1 月
一般財団法人エルピーガス振興センター	相談支援事務所棟	相談支援事務所棟建築工事	補助： 3,584,500 円	令和 8 年 1 月